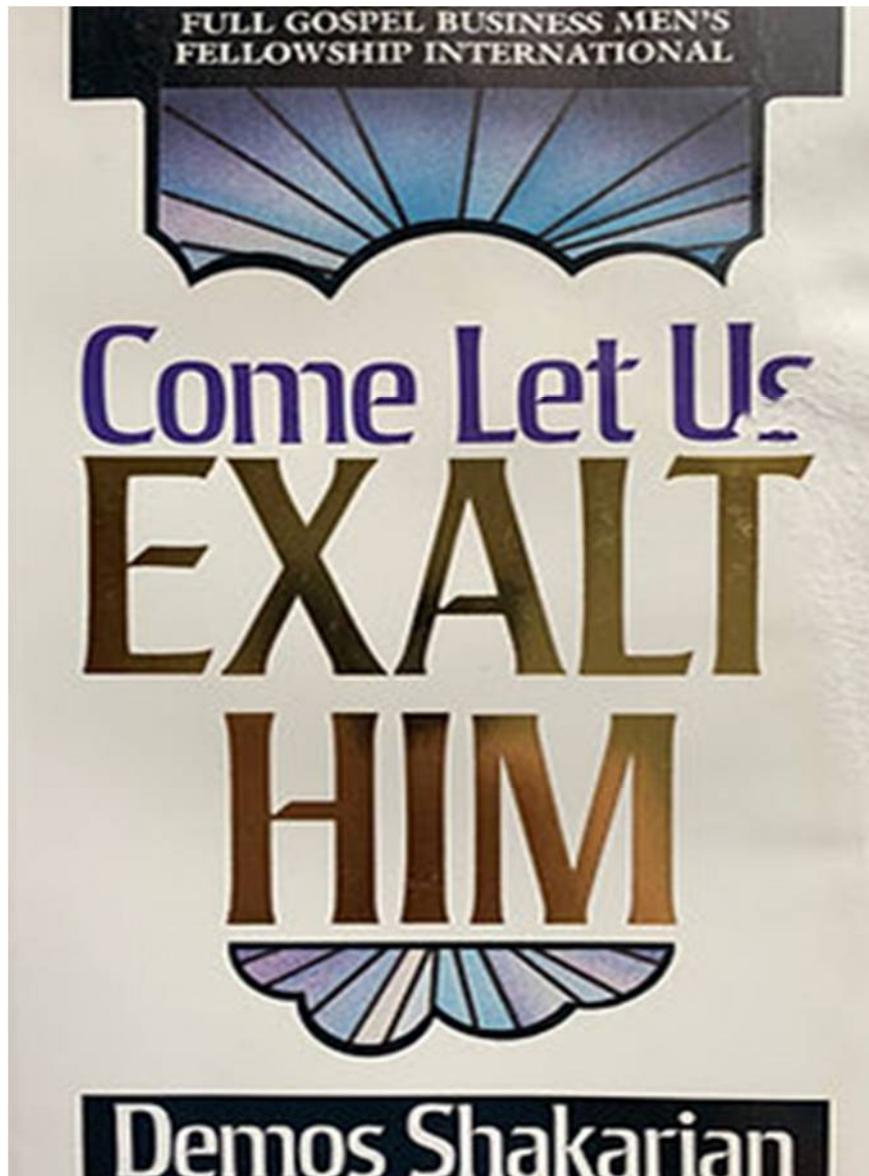


さあ、主を賛美しましょう！



著作権 © 1992 年 6 月

目 次

はじめに ステパノはイエスを賛美しました！	3
第1章 主を賛美しよう！	6
第2章 「ヨハネ、本当に聖霊が必要ですか？」	9
第3章 変革の風	14
第4章 神のためならどこへでも行きますか？	18
第5章 神は賛美を喜ばれます！	25
第6章 イエスを賛美しよう！	34
第7章 礼拝=最優先事項	38
第8章 礼拝の勝利	42
著者について	53

「私とともに主をほめよ。共に、御名をあげよう。」 (詩篇 34:3)

はじめに

ステパノはイエスを讚美しました！

ある夜、いつものように家で祈っていたとき、「神の御心を求めよ」といった主の特別な問い掛けが私の心に迫りました。

「父なる神よ！あなたが、このフェローシップを困難な終わりの時へと向かわせる新しい一歩とは何でしょうか？」

続けて主に祈り、礼拝して、主のお答えを求めていたら、とても鮮やかな聖書的な光景が私にやって来ました。それはまるで展開するドラマを見ているかのようなようでした。

私が見たものは鮮明で、まるで生で見ているかのようにリアルでした：私は、神が御言葉をより鮮明に、より生々しく見て、表現する能力を与えてくださるよう、特別な方法で御言葉を表現し、見るができるようにしてくださるようにと祈っていました。あの夜見たものは、その祈りの答えだったと思います。

私は、教会最初の殉教者という栄誉に浴したステパノを見ました。彼が説教し、祈り、そして最終的には、彼の死につながった石打ちを経験したように。

私は「かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち」（使徒 7:51）を見ました。祭司たちや支配者たちは、金で飾られた派手な衣に身を包んでいました。彼らはステパノの強く油そそがれた説教を評価しませんでした。しかし、ステパノは大胆に立ち、心を硬くした彼らに神の御言葉を宣言し、聖霊に抵抗するのをやめる必要があると警告しました。

「かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち。あなたがたは、父祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。あなたがたの父祖たちが迫害しなかった預言者がだれかあったでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを前もって宣べた人たちを殺したが、今はあなたがたが、この正しい方を裏切る者、殺す者となりました。」（使徒 7：51～52）

ステパノの大胆さを想像できるでしょうか？彼は司祭たち、裏切り者たち、殺人者たちに叫びました。ステパノの言葉はおもに旧約聖書の歴史の朗読であり、クライマックスはイエスを殺害した彼らに対する痛烈な叱責でした。彼が勇気ある告発を語ったとき、その顔は天使のように輝いたと、みことばは伝えています。

「議会で席に着いていた人々はみな、ステパノに目を注いだ。すると彼の顔は御使いの顔のように見えた。」（使徒 6：15）

私は、ステパノの聖なる大胆さに怒った司祭や支配者たちの顔が怒りで真っ赤になっていくのを魂で見ました。私は、彼らのサンダルが砂の上を落ち着きなく動き、小石や土を蹴りながら耳を傾けているのを見ました。ステパノの顔が文字通り大きくなり、天に向かって宣言するのを見ました。

「こう言った。『見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。』」
(使徒7:56)

ステパノがイエスを賛美し、彼の礼拝説教が増えると、近くに立っていた祭司や支配者たちの怒りも増しました。突然、彼らはこれ以上、天の賛美を聞くことができなくなりました！彼らは動物のような怒りを爆発させ、まるで狂犬病の犬のようにステパノを攻撃し始めました。

「人々は大声で叫びながら、耳をおおい、いっせいにステパノに殺到した。」(使徒7:57)
私は、制御不能になった男たちが穏やかなステパノを取り囲み、殴り、唾を吐きかけるのを鮮明に魂で見ました。

彼らの怒りは理由もなく、彼らの憎しみは挑発もありませんでした。ステパノの目が、御父の右に座しておられる天のイエスの御顔を見つめ続け、ステパノが神への賛美と礼拝を捧げ続けている間、悪魔はますます怒り、絶望的になっていきました。そしてついに、石打ちが激しくなるにつれて、ステパノは、キリストが死んだように、卑劣な殺人者たちを恨むことなく死んでいきました。

「そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。『主よ。この罪を彼らに負わせないでください。』」こう言って、眠りについた。」(使徒7:60)

この光景を目にし、ステパノの忠実さを目の当たりにし、天の王への賛美を耳にしたとき、私もイエスを賛美し始めました。神への賛美の中で、ステパノが感じたに違いないことを少し感じ始めました。

私自身が激しい賛美と礼拝の時間に入ったとき、神の霊が特別な形で私に臨み、こう言われました。

息子よ、やってほしいことが2つあります。

1. 男性たちにイエスを賛美するように伝えてください。
2. 米国の各都市へのエアリフト（アウトリーチ）を始めてください。

「もし人々が私を崇め、私に目を向けるなら、私は彼らに私の霊を注ぐ。しかし、私の聖霊のこの力強い注ぎは、私の息子イエスの賛美と霊的につながっていることを忘れないでほしい。」と神は言われました。

あの夜の神聖な体験の直接的な結果として、あのシンプルだが霊的に重要な啓示の直接的な結果として、私は、この終わりの時に神があなたたちに示されていることの完全な尺度をあなたたちが知ることができるように、『さあ、主を賛美しよう！』と書かなければならないと感じました。

皆さん！神は私たちフェローシップの中にいる者たちに、天に向かって頭を上げ、イエスが御父の右に座しておられるのを見て、敵がどんなに怒っても、悪魔が私たちの激しい賛美と礼拝のために私たちに石を投げつけようとしても、心を尽くしてイエスを賛美するようと呼びかけておられるのです。

神は、心の清い人、敵に寛容な人、イエス・キリストの血で洗われることを厭わない人を求めておられます（イエスの血だけが私たちに清く聖なる者とする事ができるのですから）。

神は私たちに、すべての罪を悔い改め、イエス・キリストの血の現実を受け入れ、血の力、神の子羊の血を通して神が与えられる完全なきよめを受けるよう求めておられます。

その夜、ステパノの生々しい幻を見たとき、私がイエスを賛美すれば賛美するほど、天上のイエスに目を凝らせば凝らすほど、私はイエスの祝福と油注ぎと啓示を受けました。

この本を読めば、同じように油注がれた祝福と啓示があなたの人生に流れ込むと私は信じています。

神が私の魂の中に生んでくださった霊的真理のいくつかを分かち合いましょう。共に、私たちの目をイエスにまっすぐに向けながら、心をひとつにして、「さあ、イエスを賛美しよう」と宣言しようではありませんか。

デモス・シャカリアン

「われらの神、主をあがめよ。その足台のもとにひれ伏せ。主は聖である。」(詩篇 99 : 5)

第 1 章 主を賛美しよう！

主を賛美することは、なんといい喜びでしょう！

私は今 70 代ですが、イエスについて話すことに飽きることはありませんし、イエスの聖なる御名を称えることに飽きることもありません。

イエスが最初にどれほど私たちを愛しておられたかを見てください！

イエスは父の王国の象牙の宮殿を離れ、私たちのあらゆる必要を満たすために地上に降りてこられました。

私たちがイエスのことを気遣うことを夢見る前に、イエスはまず私たちのことを気遣ってくださいました。

迷える羊が救いの道から遠く外れてしまったことに気づく前に、迷える羊を見つけ、救い出すために地上に降りてきてくださったのです。

イエスは、イエスを招かなかった敵対的な世界に住んでおられた。私たちが永遠のキリストを知ることができるように、カルバリのキリストを遣わしてくださった主を、私はどんなにか賛美しましょう！

世界大会で何千人ものビジネスマンと共有しようが、小さな部屋で隣の人に伝えようが、イエスの話は何度しても色あせません。語り継がれるたびに、あらためてイエスの愛の無限の豊かさが明らかになり、その慈悲と恵みの偉大さを映し出します。

私たちが父を賛美し、イエスを賛美し、イエスの尊い聖霊を賛美するとき、私たちはイエスの本質と働きを垣間見る神聖な体験をし始め、私たちの魂と心はいつしか奇跡的にイエスの神聖な愛で満たされるようになります。

本書は、すべてを備えておられるイエス・キリストを賛美するために書かれたものです。

あなたの勝利のための主の力

3 年という短い地上での宣教の間に、イエスはあらゆるタイプの人々と接触し、人々が直面する考えられるあらゆる問題に取り組んだことを、あなたは理解しているでしょうか？

あなたのためのイエス！

毎日、人の魂の敵と格闘し、悪魔の力に対してその力の腕を振り上げました。アダムの墮落以来、悪魔は人の心に不幸と計り知れない苦しみをもたらしてきました。しかし、イエスによって、神の敵はひとりずつ立ち向かい、ひとりずつ打ち負かされました！

あなたのためのイエス！

キリストはあらゆる緊急事態に十二分に対応されました。キリストは、罪深い人々を救い出すために戦われたすべての戦いに勝利され、今日も世界中の人々の生活の中で勝利されて

います。

あなたが今直面している状況がどのようなものであれ、それが深刻なビジネス上の問題であれ、破綻した結婚生活であれ、救われていない愛する人であれ、ドラッグやアルコールに束縛されている息子や娘であれ、途方もない経済的打撃であれ、どのようなものであれ、純粹な悔い改めの心を持って主イエス・キリストを賛美し始めれば、主はあなたの状況に打ち勝つ勝利を与えてくださります。

あなたは、イエスが地上を歩かれたときに使われた靈的勝利の武具と同じものを持っています！

誘惑を受けたとき、イエスはその人生で悪魔を打ち負かすために同じ力を使われました。イエスは誘惑の山で誘惑され、悪魔は試練を与え、人間であるイエス・キリストを罪に陥らせようとしていました。しかし、イエスは完全な勝利者として山から下りてこられました！ その山では、悪魔とイエスの対決における本当の戦い、本当の問題は、"私たちは誰を礼拝するのか？"ということであったことに気づかなければなりません。

イエスに対するサタンの嘘

サタンはイエスを挑発して言いました。

「『もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。』」（マタイ 4：9）それに対してイエスはこう答えられました。

「イエスは言われた。“引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。”」（マタイ 4：10）

人生におけるすべての戦いは、勝利への鍵は自分が誰を礼拝しているかを知ることだと理解することで、打ち負かすことができます。

悪魔の浅はかな嘘に決して惑わされてはなりません。靈的な戦いは、常に一つの主題をめぐって行われます。「誰に仕えるのか？」

今日、この本を読みながら、あなたが抱えている問題の山がどんなに大きくても、神は、あなたが礼拝の力によって、地獄の力に打ち勝ち、魂の勝利を得て、問題の山を下っていくことを望んでおられます。

イエスは、"主なる神"だけを礼拝すると宣言されました。

「すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。」（マタイ 4：11）

悪魔は神への賛美の最中に逃げ去りました。

悪魔が去った後、神は賛美を受け、天の天使たちを遣わしてイエスに仕えさせられ、愛を与えられました。

物語を語り続けること

だからこそ、私はイエスの信じられないような愛の物語を飽きることなく語り続けるのです。

私たちの神、主を賛美することに飽きることはありません。

イエスの物語は、天の御父の子供たちへの愛が永遠に続く物語です。それは、イエスの力と栄光の顕現を示す物語であり、イエスの名を聞けば悪魔が震え上がるほど荘厳な力です。「あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。」(ヤコブ2:19)

今日、主を賛美するとき、あなたのすべての力はイエスの中にあることを悟りましょう。この方なしには、荒れ狂う風に容赦なく翻弄される塵のように、あなたは無力なのです。キリストはあなたのすべてであり、あなたの人生のあらゆる部門において、キリストがすべてを満たしてくださることによって、あなたのあらゆる必要を満たしてくださるのです。

イエスは罪に対して十分でした！

イエス・キリストは、アダムの時代以来、罪によって汚されることも、不義によって墮落することもなかった唯一の人です。罪のないキリストに対して、地獄のすべての力が戦いに結集されたとき、彼らは神の贖いの計画の経済全体を破壊しようとして惨めに失敗しました。

下記のアノニマス（匿名）の詩は、カルバリの勝利が誘惑の山での勝利によってのみもたらされたことを要約しています。

「罪の代価を支払うに十分な善人は他にいませんでした。イエスは唯一、天国の門の鍵を開けて、私たちを入れてくださりました。」

イエスは私たち捕らわれ人を解放してくださりました！

私たちの魂のあらゆる必要を満たしてくださるキリストを賛美しましょう。その力によって、私たちは勝利に満ちた人生を送ることができます。

イエスは創造主なのだから、イエスを賛美しましょう。

「またこう言われます。『主よ。あなたは、初めに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。』」(ヘブル1:10)

主が私たちが造られたのだから、主を賛美しましょう！

「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。

御子は、御使いたちよりもさらにすぐれた御名を相続されたように、それだけ御使よりもまさるものとなりました。

神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』またさらに、『わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。』」(ヘブル1:3~5)

主を賛美し、叫びましょう！

「主よ。あなたは私の神。私はあなたをあがめ、あなたの御名をほめたたえます。あなたは遠い昔からの不思議なご計画を、まことに、忠実に成し遂げられました。」(イザヤ25:1)

「あなたは、私の神。私はあなたに感謝します。あなたは私の神、私はあなたをあがめます。」
(詩篇 118 : 28)

第 2 章

「ヨハネ、本当に聖霊が必要ですか？」

復活から昇天までの 40 日間、イエスは弟子たちに少なくとも 10 回姿を現されたと記録されています。そうすることで、混乱した弟子たちの心から、イエスが存在し続け、生きている実在の人物であるという疑念を永遠に消し去ることができました。

その 40 日間、使徒たちにとって、復活して栄光を受けた実際の肉体を持つイエスと一緒に歩き、話し、食事をするのが、どんなに素晴らしい経験であったに違いないと想像できるでしょうか？

イエスは閉ざされた戸口の向こうに現れては消えました。

イエスはどこからともなく現れ、そしてまた突如に消えました。

イエスが復活してから 50 日目、天に昇られてから 10 日目がペンテコステでした。

ペンテコステは「ユダヤ人の週の祭り」であり、「収穫の祭り」「初穂の日」とも呼ばれ、ユダヤ人のペンテコステは過越の祭りの 50 日後に行われました。(ユダヤ人の様々な祝日の具体的な説明を読みたい場合は、レビ記 23 章を参照してください。そこには、ユダヤの祝日の詳細と、適切ないけにえが列挙されています。)

ペンテコステがキリスト教の祝祭になる前は、ユダヤ教の宗教的な祝祭だったことを覚えておく必要があります。ユダヤ人が祝っていた 50 日間は、過越の祭りに続く 50 日間でした。

使徒 2 章に詳述されているように、ユダヤ教のペンテコステの日に屋上の間で起こったことは、ユダヤ教のペンテコステの祭りを文字通りキリスト教の祭りに変えました。

聖霊はイエスを賛美し、高めます。

イエスは、ヨハネによる福音書 16 章 7 節から 14 節で、聖霊の到来とその目的について述べられ、重要な言葉で結ばれました。“聖霊は、わたしを現します。”

「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。

その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。

さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。

しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。

御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。」
(ヨハネ 16：7～14)

ペンテコステの日、あの屋上の中で、聖霊の力強い奇跡的な顕現によって、これらの言葉が現実のものとなりました。

神は、使徒 2 章に描かれたペンテコステの日全体を、ステパノの死を見たときと同じように、私の心の中ではっきりと見るようにしてくださりました。

次のページでは、あのペンテコステの日曜日に交わされたかもしれない会話（まるで私がクリスチャン記者として、霊的に歴史的な出来事取材する任務を与えられたかのように）を紹介したいです。ペンテコステについてこのような珍しい方法で書くことで、あのキリスト教最初のペンテコステにおける 120 人の弟子たちの魂と態度をよりよく理解し、感じていただければと心から願っています。

早朝

私たちは、使徒たちがイエスの命令に従って 7 日間祈りと断食をしていた屋上の中に続く階段の下に立っています。「彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。『エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。』」（使徒 1：4）

この早朝、二人のマリヤとマルタを含め、弟子たちが再び部屋に集まり始めました。一人ずつ、屋上の中に続く石段を登っていきます。

私はその階段の下に立ち、すれ違うさまざまな人々にインタビューしようと思っています（デモス・シャカリアンとしてではなく、その日繰り広げられる出来事や光景を取材するためにそこに興味ある記者としてインタビュー）。ペテロが来ました。「ペテロ、ちょっといいかい？」彼が階段を上り始めると、私は尋ねます。「いいよ」と彼は少し当惑した様子で言います。「どこへ行くの？」と訊ねますと、「祈って主を賛美するために屋上の中に行くんです」と彼は答えます。「今日は何が起こると期待しているのですか？」と私はこう尋ねます。「私の主人であるイエス・キリストが約束された聖霊を受けることを期待しています。」それが彼の自信に満ちた答えです。「ペテロよ、聖霊を受けることができると思うほど大胆になれるのですか？」と私は彼に尋ねます。「だめですか？」と彼は尋ねます。

「あなたは 3 度も主を否定しました。あなたは主を信じませんでした。主があなたを最も必要とした時、地上で最悪の試練の時、あなたは主を否定しました。あなたは呪いました。どうして今、聖霊を受けられると思うのですか」。私は最も厳しい記者口調で彼に尋ねます。ペテロは私の質問に臆することはありません。

とても自信に満ちた表情で、「私は主を否定したからこそ、聖霊が必要なのです。聖霊の力によってのみ、私は二度と主を否定することはありません。主はすでにその血で私の罪を洗ってくださった。そして今、この聖霊降臨の日に、私は聖霊によって力を受けるのです。」と彼はこう答えます。

ペテロはそれ以上何も言わず、私の反論にすべて答えたと確信して、階段を上って上の部屋に向かいます。

ペテロが歴史的な部屋に入ると同時に、トマスが階段を上り始めます。「すみません、トマス。少しお話があるのですが、どこに行くのですか？」と私は尋ねます。「祈って主を賛美するために屋上の間に行くのです」とトマスは答えます。

「そこで何を期待しているのですか？」と私は尋ねます。「まあ、主が屋上の間に行って、聖霊を受けることができるように、主を礼拝して祈りなさいとおっしゃったんです。」と彼は答えます。「本当は、聖霊を受けるとは思っていないでしょう」と私は記者風に取材的に尋ねます。

「私は、聖霊を受けます！」トマスはすぐに答えます。「どうしてですか？」と私は尋ねます。

「主がそうしろとおっしゃったからです」と彼は答える。

「しかし、あなたは疑い深い人だ。あなたはイエス・キリストが死からよみがえったことを信じませんでした。あなたは、イエス・キリストが死からよみがえられたことを信じるには、その手の釘の跡を見たり、そのわき腹に自分の手を突き刺したりする必要があると言いました。あなたは、他の弟子たちがイエスを見たと言ったとき、その言葉を信じるができなかった人です。」と私は彼を挑発します。

「本当のことです。だからこそ、今、聖霊が必要なのです。聖霊を受けるとき、私は二度と主であり師のことを疑わないでしょう。だから、私は聖霊を受けるために屋上の間に行きます。」とトマスは答えます。

トマスが階段を登っていくのを、私は驚いて見えています。イエスがその手と脇腹を見せたときに初めて、彼はついに "わが主、わが神" と叫びました。

トマスがイエスを直接見たとき、彼は初めてイエスを神と呼びました。そして今、イエスがそう言われたので、彼は聖霊を受けるために屋上の間に行きます。今回、彼はそれ以上の証拠を必要とすることなく、完全な信仰で信じます。

次に登場するのは、最愛のヨハネです。聖書の最も偉大な著者の一人を前にして、私は少し驚嘆しています。過越の祭りでヨハネがイエスの胸に横たわったほど、イエスの近くにいた純粋な心を持つ聖なる人がここにいます。

「弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席についていた。」(ヨハネ 13:23)

「ヨハネ、話してもいいかな？」と私は尋ねます。「よくはない、ダメです」彼は答えます。

「どこへ行くの？」私はその答えを知っていながら尋ねました。「屋上の間で祈り、主を賛美するために行くのです。」と彼は答えます。

「今日は何を期待しているのですか？」と私は質問しました。「聖霊を受けるつもりです。」彼は喜んで答えました。「ヨハネ、本当に聖霊が必要なのですか？結局のところ、あなたは聖書の中で最高の作家の一人です。あなたは、キリストの地上での宣教について優れた瞬間を持っているし、誰よりもイエスについて知っています。なぜ聖霊が必要なのですか？」と私は挑発します。

「まあ、師にそう言われたからです。それで十分です。私は、揺らぐことなく前進し、主の御働きをこなせる持続力が欲しいのです。もう漁師は卒業です。今の私の唯一の仕事は、現場に出て主のために働くことです。聖霊を受けることは、その仕事において私を強くしてくださるのです。」と彼は答えました。

それからヨハネは屋上の間に行って、主に祈りと賛美を捧げます。

賛美と霊の一致

それから 30 分の間に、さまざまな背景を持つ 120 人の人々が屋上の間に押し寄せました。それぞれが相手の長所と短所をよく知っていました。

「あなたはここにいるべき人ではない。あなたは疑う人だ。」とペテロは簡単にトマスを見て言ったかもしれません。しかしながら、トマスは主を賛美する態度を保ち、主を称えることを選びました。

「ペテロよ、お前は主を呪うのですか。」とトマスはペテロを見て、簡単にこう言うことができたでしょう。

しかし、その代わりに、ペテロは神への賛美と誉を捧げました。

この日、使徒たちは些細な人格攻撃にふけることはありませんでした。彼らはそれぞれに弱いところがあることを知っていたし、そのすべてがイエス・キリストの血によって清められる必要があることも理解していました。

だから、彼らはいがみ合ったり、言い争ったりしませんでした。

その代わりに、彼らは皆、心をつにして祈るようになりました。「主よ、私たちはあなたを私たちの主、王として崇めます。どうか今、あなたの聖霊と力によって、私たちに力を与えてください。」

私たちは今、屋上の間でイエスの母マリヤに語りかけています。

「マリヤ、あなたはイエスの話をよく聞いています。イエスが語った素晴らしいことをすべて知っています。あなたは聖なる女性です。なぜこの祈りと賛美の時間が必要なのですか？なぜ聖なる霊が必要なのですか？」と私は尋ねます。「祈りと賛美は、私を大切な息子にますます近づけてくれます。そして、もし私が聖霊を受けるなら、聖霊は私に語ったすべてのことを私の心に早めるでしょう。さらに多くのことを教えてくれるでしょう！そして、私は彼に語り続けてほしいのです。」とマリヤは忍耐強く、愛に満ちた口調で答えます。

そう、聖なる女性であるイエスの母マリヤでさえ、聖霊を受けるために一致、祈り、賛美の時に入ってきたのです。

「この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心

を合わせ、祈りに専念していた。」(使徒1:14)

その時、

「五旬節の日になって、みなが一つの所に集まっていた。」(使徒2:1)

再び、

「そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」(使徒2:46~47)

このペンテコステの日の視覚化を通して、キリスト教会がペンテコステに誕生したのは、イエスによって選ばれた教会の霊的指導者たちが、祈り、願い、賛美を続け、主の存在のすばらしさを称えることによって、喜んで主に従ったからだということがお分かりいただけだと思います。

従順で賛美されたその時から、彼らのために、聖霊は謙虚な心に順応した歓迎で満たし、イエスが持っておられたすべてを受け入れる準備ができていました。

「また、主を民の集会であがめ、長老たちの座で、主を賛美せよ。」(詩篇 107 : 32)

第 3 章 変革の風

その屋上の間にいた 120 人の人々が、心をついにし、声を合わせて、主を崇め、讃え、称えるとき、祈りと歌は天に向かってまっすぐに昇っていきました。一人ひとりが神への愛を注ぎ出すと、神の霊が奇跡的な方法でその部屋に引き寄せられ、その場所の甘露な霊に誘惑され、天の創造主からの触れ合いを求めて泣き叫ぶ飢えた心に、ますます近づいてくるのを感じることができました。

賛美の歌が次から次へと彼らの唇からこぼれ落ち、天の父への礼拝と讃美を捧げました。

「ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。アーメン。アーメン。」
(詩篇 41 : 13)

「私たちはいつも神によって誇りました。また、あなたの御名をとこしえにほめたたえます。セラ」(詩篇 44 : 8)

「すべての国々の民よ。手をたたけ。喜びの声をあげて神に叫べ。まことに、いと高き方主は、恐れられる方。全地の大いなる王。」(詩篇 47 : 1~2)

「主は大いなる方。大いにほめたたえられるべき方。その聖なる山、われらの神の都において。」(詩篇 48 : 1)

歌と賛美は天に向かって急上昇し、その一つひとつが前にも増して主の御耳に誠実で心地よいものでした。120 人の弟子たち全員が膝をつき、目に涙を浮かべ、賛美し、祈り、称え、主が自分たちに御姿を見せてくださるように、主の力と愛を自分たちの上に現してくださるように懇願しました。

この 120 人の弟子たちは、熱烈に、そして異口同音に、愛なる主を愛し、主を賛美しながら、その聖なる霊に触れたいと切望していました。

突然、衝撃的な、人間の声ではない大きな雷のような音が放たれ、屋上の間にいた 120 人は静まり返り、皆の注意が釘付けになりました。

その時、彼らは大嵐のような風の唸りを聞きました。

その音は全体に浸透していました。

音は天井からまっすぐ降りてきました。

一人ひとりがひざまずいて、この神の力強い顕現に圧倒されている間に、火の舌が使徒たち一人ひとりの上に分かたれました。

騒がしくなったユダヤの祝祭

街の別の場所では、何千人ものユダヤ人が聖霊降臨を祝うために集まっていました。教会の歴史家は、過越の祭りと聖霊降臨の祭りを祝うためにエルサレムに何万人もの人々が集まっていたと考えています。彼らは子羊と食べ物を用意していました。

先祖たちが子羊の血を柱に塗ったとき、死の天使がやって来て、彼らの家の上を通り過ぎたことを思い起こしながら、この大祝祭を祝うために、彼らは子羊と食べ物を食卓に並べました。

祭司たちは美しい礼服を身にまとい、金で飾られた豪華な衣服で練り歩きました。まるで自分たちが重要人物であるかのように、彼らの靴でさえ、美しい手作りの革製でした。彼らは当時の王様でした。

漁師たちとは対照的です。取税人たち、イエスが群れを率いるために選んだ平凡な信徒たちでした。漁網を扱う彼らの手からは、磯の香りがしました。漁網を扱った手は青銅色に焼けていました。

荒くれ者。洗練されていない人々。働く人々。その屋上の間では、信徒が高貴な神の前にへりくだりました。

このユダヤ教の祝祭の最中に突然、ラビと司祭たちは大風を耳にします。恐ろしい体験です。その音を聞いた何千人ものユダヤ人たちが、まるで大きな砂糖の山に引き寄せられるかのように、蟻のように上の屋上の間に向かって動き始めました。

屋上の方にいた謙虚な信徒たちに火が点くと、彼らは突然異言を話し始めました。

ペテロは立ち上がって説教を始め出しました。

もちろん、当時のユダヤ人たちは知らなかったのですが、風と火と天が開くというこの力強い超自然的な現れは、イエス・キリストの復活を世に公言するものでした！

それは、ユダヤ人と、ユダヤ教の聖霊降臨祭のためにエルサレムに集まったユダヤ人異教徒（当時知られていた世界のすべての国から、使徒 2:9-11 には、特に 15 の国々が言及されています）。

それなのに、ユダヤ人たちはこのガリラヤの使徒たちが自分たちの言葉で語りかけているのを聞きました。

そして、15 の異なる国々から来たこれらの人々は皆、「このガリラヤ人はどうして私の言葉を話せるのだろうか？」と驚いていました。使徒たちは、まるでそれぞれの国で育ち、その国の言葉を熟知しているかのように、それぞれの母国語で話していました。

すべての人に理解されるこの超自然的な力はどこから来たのでしょうか？

それはイエスから来ました。

そしてそれは、全能の王への賛美と礼拝から始まりました。

使徒たちは異言で語り、神を賛美し、霊において神を称えました。彼らが神を称えたので、町全体が揺れ動きました。

変貌したエルサレム

3,000 人が初日にイエス・キリストを主、救い主として受け入れました。

「そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた、その日、三千人ほどが弟子に加えられた。」（使徒 2: 41）

さらに別の時には、5,000 人が加えられました。

「しかし、みことばを聞いた人々が大ぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。」(使徒 4：4)

またある時は、

「そればかりか、主を信じる者は男も女もますますふえていった。」(使徒 5：14)

彼らは“非常に増え”、その中には反対陣営の内部からも大勢の祭司たちが含まれていました。

「こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。」(使徒 6：7)

弟子たちの中には、あまりに声を張り上げ、大胆に説教をする者がいたので、多くの観察者が、[この人たちは酔っばらっている]と断言しました。

しかし、彼らは酒を飲んでいませんでした。

「今は朝の九時ですから、あなたがたの思っているようにこの人たちは酔っているのではありません。」(使徒 2：15)

ペテロは観察者たちに、弟子たちは酔っばらっていたのではなく、預言者ヨエルが予告したように、神の霊に満たされていたのだと説明しました。

「『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。また、わたしは、上は天に不思議なわざを示し、下は地にしるしを示す。それは、血と火と立ち上る煙である。』」(使徒 2：17～19)

ペンテコステの魂を救う効果は永続しました。ペンテコステの日に彼らが祈りと賛美を続けた直接の結果として、その後、伝道活動が勃発し、世界を変えるまで続きました。

「そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」(使徒 2：46～47)

なぜ祭司たちではないのでしょうか？

さて、不思議に思われるかもしれないが、なぜ神はあのペンテコステの日曜日にユダヤ人の祭司たちをその力で満たされなかったのでしょうか？

なぜなら、聖霊の新しいぶどう酒を古い皮袋に入れることはできないからです。彼らは祈りに満ちた準備に時間を費やし、一心に祈り、神を賛美していなかったのです。

今日、神が私たちを新しい被造物にしてくださるように、神は弟子たちを新しくされ、その新しい皮袋を最高のワインで満たしてくださったのです。120 人の弟子たちを聖霊の新しいぶどう酒で満たされたのだ。

使徒たちの奇跡的な変身を見ていた人々は「救われるためにはどうすればいいのだろう？」と叫びました。

「悔い改めてバプテスマを受けなさい」というのが使徒たちの答えでした。

だから、ある日には3,000人が改宗し、別の日には5,000人が改宗したのです。男性諸君、ペンテコステが起こったのは、使徒たちが一心に集まって祈り、イエスを賛美したからです。彼らが屋上の中で祈り、賛美したとき、聖霊が動き、世界は永遠に変えられました。

この終わりの時を、注意深く見てみましょう。

聖霊の同じ奇跡的な顕現が、私たちがかつて見たことのないような方法で、現代に解き放たれようとしています。それは、弟子たちがペンテコステの時に現したのと同じ態度、すなわち、全世界の力ある王であり創造主である方への祈りと賛美と高揚の態度を通して放たれるのです！

「『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。』」（使徒 2：17）

第 4 章

神のためならどこへでも行きますか？

旧約聖書では、エリヤが行くところにはエリシャが従いました。エリヤがベテルに行ったとき、エリシャはこう宣言しました：

「エリヤはエリシャに、『ここにとどまっていなさい。主が私をベテルに遣わされたから』と言ったが、エリシャは言った。『主は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。』こうして、彼らはベテルに下って行った。」（Ⅱ列王記 2：2）
エリヤがエリコに行ったとき、エリシャは再びこう宣言しました：

「それからエリヤは彼に、『エリシャ。ここにとどまっていなさい。主が私をエリコに遣わされたから』と言った。しかし、彼は言った。『主は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。』こうして、彼らはエリコに来た。」（Ⅱ列王記 2：4）

神がエリヤをヨルダンに遣わされたときも、エリシャはそれに従いました：

「エリヤは彼に、『ここにとどまっていなさい。主がヨルダンへ遣わされたから』と言った。しかし、彼は言った。『主は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。』こうして、ふたりは進んで行った。」Ⅱ列王記 2：6）

エリヤがエリシャに、連れ去られる前に何が欲しいかと尋ねたとき、忠実なエリシャはこう答えました：

「渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。『私はあなたのために何をしようか。私があるところから取り去られる前に、求めなさい。』すると、エリシャは、『では、あなたの霊の、二つの分け前が私のものになりますように』と言った。」（Ⅱ列王記 2：9）

エリシャはエリシャの外套を求め、彼の忠実さによってそれを受け取りました。

彼もまた、その水を打つことができた、そして、彼らは分かれました：

「彼はエリヤの身から落ちた外套を取って水を打ち、『エリヤの神、主はどこにおられるのですか』と言い、彼が再び水を打つと、水が両側に分かれたので、エリシャは渡った。」（Ⅱ列王記 2：14）

多くの預言者たちは、エリシャがエリヤの足跡を着実にたどっていることを嘲笑したが、結局、同じ預言者たちは、次のように言いました：

「エリコの預言者のともがらは、遠くから彼を見て、『エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている』と言い、彼を迎えに行き、地に伏して彼に礼をした。」（Ⅱ列王記 2：15）

皆さん、エリヤはキリストの型であり、私たちはエリシャのようなものです。

私たちは主人のそばを離れることを拒まなければなりません。

私たちは、エリヤのマントの二重の分け前を求めるほどに、エリシャの油注ぎに飢えなければなりません。

クリスチャンの原則を軽んじる周囲の人々からの嘲笑や笑いに耐えなければなりません。

皆さん、私たちはエリシャのように、神のためにいつでもどこへでも行く用意をしていなければなりません！私たちは、神とともに全力を尽くさなければなりません。イエスから目を離さず、イエスに従い続けなければなりません。

エリヤはヨルダンに行き、それはエリシャにとってエキサイティングなことでした。エリヤは砂漠で、外套を取って水を打ち、水が「あっちに分かれたりこっちに分かれたり」するような素晴らしい経験をたくさんしました：

「エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。すると、水は両側に分かれた。それでふたりはかわいた土の上を渡った。」(Ⅱ列王記2:8)

私たちがイエスとともに忠実に歩むとき、私たちにも同じように奇跡的なことが起こります。イエスに従って屋上の間に行った弟子たちのように。イエスは彼らにマントである聖霊を送られました。

エリヤがエリシャに言ったように、聖霊は私たち一人一人に、「あなたは旅路で長い道のりを歩んできました。欲しいものは何でも聞いてください、そうすれば与えます。」と言われます。あなたの心が純粹で、罪を避けているなら、謙虚な心で「主よ、あなたの外套が欲しいです。あなたが持っているものの2倍の部分が欲しいです。」と言えるでしょう。

弟子たちは屋上の間に行ったとき、イエスに頼まれたことを何一つ省略しませんでした。彼らはすべてを正しく行いました。彼らは謙遜に行いました。プライドも嫉妬もいがみ合いもありません。彼らは一致の霊で行いました。

そして何よりも、彼らは祈りと賛美を通して神の祝福を切に求めた！

突然、彼らはマントを受け取った。

エリシャはエリヤからマントを受け取り、水を打つと、水は分かれました。エリシャの時代の預言者たちはこれを見て「彼を見よ。彼は力を持っている。」と言いました。

その騒々しさに惹かれて屋上の間に集まってきたユダヤ人たちは、弟子たちを見て「彼らには力がある。彼らはあらゆる方面に出かけていく。彼らは振り返らなかった。」と言ったに違いありません。

皆さん、私たちはイエスのために全力を尽くす必要があります。どうすることもできないほど、心の奥底に神の炎を持つ必要があります。全身全霊を傾けて、聖霊のうちにイエスを賛美しなければなりません。

私は若い頃、神が父なる神を賛美する賜物を持つ人々を教会に起こされたことを覚えています。今日、私たちは御霊の賜物を取り戻さなくてはなりません！

神は、私たちの心の切実な叫びをもう一度聞きたいと願っておられます。若い男性が新しい

恋人からの触れ合いを求めて全身全霊で叫ぶように、私たちは神に飢える男女を見つける必要があります。

私たちは、賛美をもって天の頂点に触れるために、どんな山にも登り、どんなコースも歩き、どんな障害物も喜んで乗り越えなければなりません！

これこそが神が望まれることであり、私たちが神を喜ばせることなのです。もし私たちが真剣にそれを求め、切望するなら、神は私たちに御霊と御力を与えてくださります。

聖霊は私に、もし私たちがイエスを賛美し始めるなら、もし私たちが心の奥底で、それを受け取るためなら何でもするというほど神からの触れ合いを望み始めるなら、神は私たちの心を称え、霊的な歴史上かつて見たことのないような御霊をこのフェローシップに注いでくださると告げられました！

ローマ百人隊長の叫び

屋上の間での場面から、ローマの百人隊長の一人がいる外の中庭に場所を移しましょう。「どうぞ、こちらへ。お話があります」と私は言いました。

「はい、」と彼は答えました。軍人は誰に対しても敬意を払うものです。

「あなたは、イエスの手に釘を打った人ではないですか？」と私は尋ねました。

「そう、私です。だから怖いのです」と、まるで誰かが飛びついてきて剣で刺す気配を感じているかのように、左右を見回しながら彼は答えました。

「なぜ怖いのですか？」と私は尋ねました。

「私は多くの人を磔にしてきました。私は専門家です。それが私の職業です。しかし、この人は私が十字架につけた他の人たちとは違っていました。彼を木の十字架につけたとき、私たちはこの人と争う必要がなかののです。彼はただ、喜んで横たわっていました。無理に手を開かせる必要はなかったのです。私が彼の手首に釘を打つために、彼は進んで手を開いたのです。まるで死にたがっているかのように、命を捧げたがっているかのように。」と彼は早口で話し始めました。

ローマの百人隊長は立ち止まり、暗殺者候補がいないか周囲を慌ただしく見回しました。

「私は人に痛みを感じさせる方法を知っています。それが私の仕事です。人を痛めつけます。もっとひどく痛めつけます。人の体が衝撃を受け、震えるほど痛めつけたことは知っています。でもね。彼は一言も言わなかったのです。他の人たちがしたように、私を罵ったり、私の顔に唾を吐いたりしなかったのです。この人はそんなことはしなかったのです。私が怖いのは...」

ここでローマ兵は、これから語ろうとする言葉を他の者に聞かれないかのように、声を低くしました。「彼は神の子だと名乗りました。私たちは彼を殺すが、彼は再びよみがえり、墓から出てくると言いました。」

その兵士は、眉間にしわを寄せて目に見えて汗をかき、指先には電気ショックが走ったように手が震えていました。まるで自分が犯したとんでもない犯罪を認めて安堵したかのように、彼は大きなため息をつきました。

「彼を殺したのは私です。そして今、墓場から蘇りました。私は彼を十字架につけました。怖いのです。一歩踏み出すたびに、大地が開いて、穴に落ちて、そこで殺されるのではないかと怖くなります。」

そして、目を輝かせて私を見ます。「この人が神の子だというのは本当ですか？」と彼は尋ねました。「彼は殺され、そしてまた生きて戻ってきます。」と私は答えました。「彼は今どこにいるのですか？」と彼は尋ね、「はい、彼は神であり、天国と天の父に帰る準備をしています。」と私は答えました。

そして、ヨハネの福音書を引用しながら、彼に福音を伝えました。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。」(ヨハネ 3：16～18)

別れ際、私は聖霊が彼にイエスが神であることをはっきりと示し、その警戒心に働きかけ、彼の苦しめられた魂を永遠の天罰の火から救ってくださるよう祈りました。

初めから運命づけられていたこと

ヨハネによる福音書のある箇所、イエスはこう語っておられます：

「『父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。

正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。

そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。』」(ヨハネ 17：24～26)

さて、皆さん、これをよく見てください。イエスが御父を栄光で飾られたのは、私たちが御父の聖霊によって栄光で飾られるためなのです。

聖霊とは何でしょうか？

それは神の栄光が私たちの中に入ってくることです。

私たちの人生における神の力です。

そして、私たちが聖霊に飲み込まれるのは何のためでしょうか？

だから私たちは神を賛美することができるのです！

だから私たちは、聖霊の力によって御子を讃えることができるのです！

私たちの主であり救い主であるイエスを喜ばせるためなら、すべてを犠牲にしても構わないと思えるようになれば、私たちは人生の最も重要な目的を学んだこととなります。

今、私の人生で最も重要なことは、そしてそれは40年近く前からずっと、神に仕え、神に従い、神を敬い、神を称えることです。それが私たちの誰もができる最も重要なことです。皆さん、私たちは今、神が私たちに挑戦しておられるこのフェローシップにいます。神は私たちのために何かをしたいと願っておられるが、神が行動される前に、私たちが何かをしなければなりません。

私たちは悔い改めなければなりません。

神を愛さなければなりません。

聖霊の力を望みます。

そのために祈ります。

そのために主を賛美します。

そうすれば、神は私たちに神の霊の大洪水を送ってくださるでしょう。何十万人もの私たちが共に立ち、主を称える姿が目に見えます。

主を褒め称えます。

そして、主はさらに火に油を注ぐでしょう。

私はそれを見えています。

しるし、不思議、奇跡の時です。

私はそれが来ると見えています。

イエスが来られる前には、教会の始まりの時のように、聖霊の力強い注ぎがあると私はいつも感じていました。

今、聖霊は最近私に与えられた啓示を通して、私の心にその真理を確認されました。

主の聖霊をこの特別な方法で経験する場所に行くためには、私たちがしなければならないことがいくつかあります。私たちは良いスタートを切りました。私たちは40年間活動してきました。

今、私たちは来るべき終末の霊的注ぎに備えなければなりません。

祈りと賛美から始めましょう！

私たちは、かつてないほど祈り深く神を求め始めなければなりません。

私たちは、神に仕える決意をさらに強くして、心を開かなければなりません。私たちは、自分のことはまったく気にせず、すべてのことにおいて神を称えなければなりません。

そして、聖なる力と神の霊的祝福が私たちのフェローシップを席卷するのを見守り、求めなければなりません！

豊かなアメリカでは、物質的なものを追い求めるのは簡単です。新しい車、より大きなビジネス、より速いボート、より豪華な車。

しかし、それらは一時的なものです。

私が話している聖霊は永遠です！

この世のものにはほとんど意味がなく、死んでも天国に持っていくことはできません。しかし、神は霊的な才能を与えてくださるので、それを増やすことができます。

神から与えられた才能を生かしましょう！

タラントの話を知っているでしょう。

僕たちは、一人は5タラント、一人は2タラント、一人は1タラントを持っていました。主人が戻って来て、5タラントを持っていた者に話を聞くと、彼は自分のタラントを2倍にしたと言いました。この人に主人は答えました。

「その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』」（マタイ 25：21）

同じ称賛が、2タラント与えられ、さらに2タラント持って帰った人にも豊かに与えられました。

神は霊的なタラントを増やす者を愛される。

しかし、恐れて自分のタラントを土の中に隠してしまった人に対しては、主は別の反応を示されました。

神が賜物を与えるとき、神はそれを使うことを期待されます。

“怠惰な”しもべに対する主人の厳しい罰を見ましょう。

「役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出ささい。そこで泣いて歯ぎしりするのです。」

（マタイ 25：30）

神が霊的賜物を与えたのは、それを隠したり、埋めたり、2、3年に一度だけ掘り起こして錆びを落とすためではありません。

この世界にはなすべきことが多すぎます！

世界の半分以上の人々が、イエスの名を一度も聞いたことがなく、ましてやイエスを主であり救い主として受け入れる機会すらなかったのです。

アメリカへのアウトリーチ

もしあなたがこの地上にいる間、神のために生産的であること、有益な僕となることを選ぶなら、主は天国でより責任のある仕事を任せられるよう、あなたを信頼されるはずです。

しかしその前に、あなたは地上で忠実であることを証明しなければなりません。

だから神は、アメリカへのアウトリーチに関するもうひとつの啓示を私に与えてくださったのだと思います。

アメリカには、事実上すべての主要都市にスピリチュアルなゲットー（居住地区）があります。

表面的には、私たちの都市は豪華絢爛で、美しい建物、プールのような施設、緑豊かな道路、高級車、素晴らしい中流階級の家々に囲まれています。

しかし、過去の物質的な表層を突き詰めていくと、アメリカはかつてないスピードで、想像を絶するほど崩壊しつつある国なのです。

わずか数十年の間に、裁判所や学校、法律において神を敬うキリスト教国から、公共の場でクリスマスにキリスト教の歌を歌うことさえ許さない異教徒国家へと変貌を遂げたので

す！

ポルノを禁止する国から、ポルノを保護する国へ。

電波の純潔を守ってきた国から、暴力やセックスにおける人間の他の人間に対する最も卑劣な行為を生々しく映し出し描写することは、すべての映画プロデューサーやラジオアナウンサーの権利だと主張する国へ。

生命を神聖なものと考えていた国から、今では“自由選択の権利”のもと、毎年 200 万人近い無防備な赤ん坊を殺す国へ。

神の心の痛みを想像してみしてほしいのです。

アメリカが神のもとに戻り、純粋で聖なる声とへりくだった心で再び神を賛美し始めるよう、神は叫んでおられます。

私たちのユニークなミニストリーのひとつであり、神がこのフェローシップを立ち上げられた特別な理由のひとつが、私たちのアウトリーチ（エアリフト）です。

私たちは、神から与えられた務めを果たさなければなりません。だからこそ、神はそれを私の心に置かれたのだと私は信じていますし、この本を読んでいるあなた方の心にも聖霊が置かれていることを祈っています。エアリフトは、私たちがかつて経験したことのないほど、アメリカで爆発的に増加しなければなりません。

かつて偉大だったこの地の人々が、霊的な目を通して、アメリカが霊的に死につつあること、そして王の中の聖なる王への高揚と賛美によって支えられる聖霊の復活だけが私たちを救うことができると認識する時が来ています。

動き出しましょう！

男性諸君、そろそろ仕事を始める時です！

私の願いは、天に召されたとき、主がこの地上で私を用いてくださった以上のペースで私を働かせてくださることです！私は働き、主に仕えることが大好きです。私には続けるエネルギーがあります。神が私を用いて、私たちの代わりに聖霊の火を取り戻し、アメリカに聖霊のリバイバルをもたらす手助けをしてくださるよう、毎日祈っています。

忠実な僕に対する主人の約束を思い出してほしいのです。もし今、私たちが主人に対して忠実な僕であれば、天国に行ったとき、神は私たちの責任と主人に仕える機会を増やしてください。

「その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』」（マタイ 25：21）

「はげ山の上に旗を掲げ、彼らに向かって声をあげ、手を振って、彼らを貴族の門に、入らせよ。」(イザヤ 13:2)

第5章 神は賛美を喜ばれます！

神はその民の賛美の中に、そしてその民の心の奥底に住まわれます。

この世界はとても広いが、神がおられない場所はありません。今、この本を読んでいるあなたのすぐそばにおられるのです。

地球、いや宇宙のどこにも、彼がいない場所はありません。

私が車を運転しているとき、彼はそこにおられます。

私が世界中のどこかの大会に飛行機で行くとき、彼はそこにおられます。

人が宇宙に行くとき、彼はそこにおられます。

いつも。

どんな場所にも。

私が酪農業を営んでいたときも、牛の間を歩くときも、彼は私と一緒におられました。

私が酪農家で育ったころ、家業を始めたばかりのころ、私が空を見上げて神に向かって叫び、神が私たちに与えてくださったすべての素晴らしいものに感謝し、称えた瞬間、聖霊が外套のように私の上に現れ、神の力が私を包み込むのを感じたのを覚えています。私は興奮し、野原を走り回り、声の限りに叫び、彼の聖なる御名を祝福しました。

彼を賛美するために。

子供のようにになりましょう！

それこそが、神が私たちに望んでおられる子どものような精神であり、私たち全員が子どものような喜びを心に抱いて御名を称え、声の限りに叫び、神がその聖霊によって私たちのうちに動き始められるようにすることなのです。

私はフェロシップの中で、2,000 人の人々が神の油注ぎの下に集う集会場で靴を脱いでいた時を覚えています。

神の神聖な臨在が部屋に浸透していました。

私たちは、神がすぐそこにおられ、私たちに触れ、その存在を通して私たちの賛美を認めてくださっているように感じました。私たちは大人の抑制を捨て、見せかけのプライドを捨て、子供のような完全な団結の中で、男たちは一斉に顔を伏せ、何の促しもなく、泣きながら、王であり主である神を賛美しました。

神は今、私たちがそのような無垢な心に戻り、神の力を求め、神の存在の現実を望み、いや、

切望することを望んでおられます！

皆さんは「まあ、デモス兄弟、その時は良かったけど、神は同じことを2度することはない」と言われるかもしれません。

私は皆さんに「神は永遠に靈魂を高揚させることはありません。神は私たちとともにおられ、一度なされたことをもう一度なさりたいのです。」と言っておきます。

備えましょう！

私は、神がその霊を注ぐ準備ができていることを、あなた方に知らせたいのです。

受け取る準備はできていますか？

喜んで受け取りますか？

もしそうなら、神の言葉はあなたを祝福することを保証しています！

「主に感謝して、御名を呼び求めよ。そのみわざを国々の民の中に知らせよ。

主に歌え、主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざに思いを潜めよ。

主の聖なる名を誇りとせよ。主を慕い求める者の心を喜ばせよ。」(I 歴代誌 16: 8~10)

主を第一にするために、すべてを捨ててもいいと思いますか？もし、あなたが喜んで主をナンバーワンにするなら、主はあなたがかつて受けたことのないような祝福を与えてくださるでしょう！

「そこで、モーセとイスラエル人は、主に向かって、この歌を歌った。彼らは言った。「主に向かって私は歌おう。主は輝かしくも勝利を収められ、馬の乗り手とを海の中に投げ込まれたゆえに。

主は、私の力であり、ほめ歌である。主は、私の救いとなられた。この方こそ、わが神。私はこの方をほめたたえる。私の父の神。この方を私はあがめる。」(出エジプト 15:1~2)

FGBMFIの各チャプターで声を上げ始めましょう。世界中どこでも、あなたがそうするように、神を賛美し始めましょう。

私たちの終わりの時代のミニストリーにおいて、失われた魂に届けます。

イエスだけが、あなたの全身にペンテコステの火を灯し、癒しのために、そして人からの好意のために、人々に語りかける言葉を与えることができるのです。

病人に手を置けば回復します。

あなたがその山に『動け』と言えば、山は動きます。

私たちは、そのすべてを間もなく再び目にするようになるでしょう！

チャールズ・プライス師はかつて、信徒が病院に入って病人に手を置けば回復し、病院のベッドが空っぽになる日が来ると預言しました。

私が脳卒中の後、ダニエル・フリーマン病院に入院していたとき、体を起こすことも、頭を持ち上げることもできない時期があり頭を抱えることもできませんでした。

ある日、看護師のサンドラが私のところに来て、こう言ったのです。「シャカリアンさん、病院にいる多くの人々がテレビであなたを知っていて、病室に来て祈ってほしいと言っています。そうしていただけますか？」

神が病人のために祈り始めなさいとおっしゃったんです。

「サンドラ、喜んで彼らのために祈ります。しかし、どうやって祈ればいいのですか？」と私は尋ねました。

「じゃあ、車椅子に乗せて紐で縛ってあげるわ。そうすれば、部屋から部屋へとあなたを移動させることができるわ。」と彼女は答えました。

どう反論すればいいのでしょうか？彼女が私を車椅子に乗せてくれるのなら、私は病人のために、たとえ弱っている状態であっても、喜んで祈ることができます。

そこでサンドラは私を車椅子に乗せ、縛り付けて、その巨大な病院内を移動させ始めました。私が祈った人々のほとんどは、私よりもはるかにひどい状況でした。ひどい火傷を負っている人もいました。ある女性は完全に吊るされ、牽引されていました。彼女を見たとき、私は泣きました。

サンドラに病院内を案内してもらいながら、私は自分がとても幸運だと思いました。私の心は患者たちに傾きました。神は私に彼らの必要に対する大きな憐れみを与えてくださりました。彼らのために祈りながら、私の心はますますイエスに近づきたいと思いました。プライス師が言ったように、私たちが病人のために祈り、病院で空っぽになる日が来ることを待ち望んでいました。

その日が来ました！病院にいる人々は痛みや苦しみからの解放を望んでいます。

皆さん、私たちは神が世界を揺るがすために用いられる終末のミニスターなのです！

入院していたとき、私の時間が無駄にならなかったことを神に感謝します。弱っていた私にも、他の人々に奉仕する機会を与えてくださったことを神に感謝します。

私たちが初代教会よりも大きな力を持って歩む日が来ると信じています。もしペテロがダニエル・フリーマン病院を通して歩いていたら、何をしたら想像できますか？奇跡的な癒しが起こったであろうことを想像できるでしょうか？

それと同じパワーと偉大さが再びやってきます！

私のためのセラピー（治療）？

その後、同じ病院で、私の看護師であるサンドラが私の病室に来て、「シャカリアンさん、最初の治療に連れて行くために来ました。」と言いました。

「セラピー？どうすればセラピーを受けられるの？座っていることもできないのに。」と私は繰り返しました。

「車いすに乗せて、あなたが人々のために祈りに行くときに私がしてきたように、あなたを縛り付けておくわ。」彼女は答えました。

そして彼女がしたことはまさにそれでした。彼女は私を車椅子に縛りつけ、治療室に押し込みました。そこに着くと、車椅子に乗った 15 人ほどの人々が大きな輪になっていました。その光景は、私が参加した昔のテント集会で、癒しの祈りを捧げるために、車椅子に乗った病人が全員前列に押し出されたのを思い出させました。

これはおそらく、私の人生で最も憂鬱な瞬間でした。このような人たちを見て、彼らがどれ

ほど病んでいるかを知ったとき、ようやく自分がどれほど病んでいるかに初めて気づきました。記憶がなくなっていきました。一日一日を思い出せなかったのです。歩くこともできなかったです。体の一部が麻痺していました。

憂鬱な空気が部屋全体を支配していました。そしてついに、静寂の中で、耳をつんざくように患者の一人が叫びました、「誰か何とかしてくれ！ 誰か何とかしてくれ！」と。

またしても沈黙

すると、まるで天からの答えのように、私の後ろに座っていた黒人の女性が車椅子から歌い始めました。天使のような歌声でした。こんな美しい歌声は聞いたことがありません。その歌はまるで天の心より直接聞こえてきたかのようでした。

「救い主、救い主、私のささやかな叫びを聞いてください。」

「主よ、私はあなたに触れたいのです。」と私は叫びました。

皆が泣き、すすり泣き始めました。讃美と礼拝が数分間、部屋の中で起こりました。

讃美と歓喜がやんだとき、私は神からの奇跡的な癒しを体験したことに気づきました。記憶がよみがえり、突然、死ぬことへの恐れがなくなりました。そして、神が私にこのフェロウシップのため、神の栄光のために生き続け、働き続けることを望んでおられることにも気づきました。

今日、私の体は日に日に強くなり続け、神は私の人生に、脳卒中を患う前に与えてくださった以上の力強い油注ぎを与えてくださりました。脳卒中になる前、私が祈った人々は聖霊の力の下に置かれませんでした。今、私が人々のために祈ると、神が私に与えてくださった新しい油注ぎのおかげで、何百人もの人々がその力に倒れます。

人々が癒されていくのです。

カンザスシティで、一度も歩いたことのない車椅子の女性のために祈ったところ、神の癒しの恵みによって、彼女は車椅子から降りて歩き始めました（彼女は今も歩いていると聞いています）。

だからこそ、私は今、これまで以上に主を賛美します！

主はキリストであり、神の子です！

私たちが主を称えることによって、主は私たちの世界を変えてくださります。

男性諸君、私はこれがすぐに起こると期待しています。神の働きはまだ終わっていません。教会は今、最初の時よりも強くなるでしょう。聖霊の力強い動きがやってきます！

これは神が望んでおられることです。

神は、ご自分の栄光のために、聖なる、純粋な、正しい証人を望んでおられます！

罪は止めなければなりません！

悪魔はあまりにも長い間、この世界で自分の思いのままでした！

罪があまりにも多く、罪があなたの人生における神の意志を妨げています！神の御心に従わないことが多すぎます。

私たちが罪を取り除き、人々を正しくする方法はただ一つ、神の力によってです！

弟子たちがペンテコステに行ったのと同じようにすることです。

屋上の間での孤独な祈りと賛美の集会から、エルサレムの町全体が揺り動かされました！

3,000人が悔い改めてイエスのもとの来たのは、その群衆に聖霊を通して神の力が動いたからです。

神は、ご自分の民が再びご自分の力を受ける準備ができていることを望んでおられるのです。何事にも霊的な時があります。

ペンテコステには時があり、時計が鳴ると聖霊が来て使徒たちに力を注ぎました。

霊的な時間において、私たちが今生きている正確な秒を私は知りません。私たちは霊的歴史の最後の終末の時を生きており、神は私たちが特別な方法で聖霊の力を受ける準備をすることを望んでおられます！

それは実現します。

ジョージ・ウォーノックは、その著書『幕屋の祭り』の中で、レビ記23章の祭日について論じ、それを時代を通しての教会の時代と比較しています。言及されている祭日は以下の通りです。

1. 過越の祭り
2. 種入れぬパン
3. 初穂の祭り
4. 聖霊降臨の祭り
5. ラッパの吹き鳴らし
6. 贖罪の日
7. 幕屋の祭り

教会の本体で、これらの祝日はそれぞれ1,000年の時を象徴しています（主にとって、一日は1,000年に等しい）。七つの祭りのうち、労苦と労働の一週間（あるいは一時代）の終わりであり、休みの日である幕屋の祭りを除いて、すべて教会本体の中で成就しています。

「したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。」（ヘブル4:9）

2000年に入ると、私たちは幕屋の祭りの時代に入り、教会の1週間が終わります（神にとって1日は1000日であることを忘れないでください）。

やがて私たちは、すべての祭りの中の祭り、すべての安息日の中の安息日を迎え、神の言葉にある究極の豊かな遺産に浴することになります。

その時こそ、全世界に平和が訪れ、神の力が現れる時であり、その時こそ、約束された "後の雨" を見る時なのです。

「こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。」（ヤコブ5:7）

神は、後の雨を降らせる時、主の来臨がその民のただ中に現れる時を待ち望んでおられます。もしあなたが自分の人生に神のミニストリーの御手があるように祈っていないなら、神が地

上に放たれる栄光の後の雨を逃してしまうことになります。

イエスの栄光を受けましょう！

イエスは燃える柴の中でモーセと語られた方です。アブラハムより先におられました。

「イエスは彼らに言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。』」（ヨハネ 8：58）

新約聖書において、神がイエスを挙げられるために用いられた二つの手段は、変貌と昇天です。昇天だけで、新約聖書では 33 回も語られています。

「こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。」（使徒 1：9）

イエス・キリストは、弟子たちが見ている間に天に上げられました。この同じイエスが、その後、御父の右に座られ、この世においても、来るべき世においても、すべての権力、力、支配の上に高く上げられたのです。

「そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。」（使徒 5：31）

疑いの余地なく、イエスは神であり、単なる普通の人間ではありませんでした。イエスは言われた。"私を殺すつもりなら、私は自分で立ち上がる。"そしてイエスはそうされました。世界中の人々がイエスを称えた。イエスは言われた。"あなたが私に与えた栄光を、私はこの弟子たちに与えたい。"

「『そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。』」（ヨハネ 17：26）

それはどういう意味だったのでしょうか？

ペンテコステで火が起こったとき、神の栄光が神の子らに注がれました。

想像してみてください。あの日、天から吹き荒れる風のような形で降り注いだ栄光は、エルサレムの町全体を揺るがしたのです。

何千、何万の人々が影響を受けました。120 人の弟子たちは 15 カ国の言葉を話しました！

神はそのようなことを望んでおられます！

今日、私たちが信じることを支配し、私たちに悔い改めと罪の赦しを与え、私たちのために天国での場所を用意してくださるのは、今や昇天されたキリストなのです。

神をたたえましょう！イエス・キリストが昇天されたことによって、私たちは天を通過した偉大な大祭司を得たのです。私たちは告白を堅く守り、その恵みの座を通して大胆に彼に近づくことができます。もし神に近づくことにためらいがあるなら、私たちに必要なことは、神の御前で、私たちに代わって万物の上に立って執り成しをしておられる、私たちの大いなる大祭司である昇天された救い主を思い出すことだけです！

「それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。

それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」(ピリピ2：9～11)

あなたは今日、この力を持つことができます！

今日、この力を得るためには、漁師たちが神の前にへりくだったように、あなたも私も悔い改めてへりくだらなければなりません。偽りのプライドや自己重要感を持たないことです。ペテロは謙遜に会堂に入り、生まれたときから足の不自由な人を見て、彼に言いました。

「すると、ペテロは、『金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。』彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、おとり上がってまっすぐに立ち、歩きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。」(使徒3：6～8)

この足の不自由な人が、会堂の通路を走り回り、神を賛美し、この奇跡を神に感謝する姿を想像できるでしょうか？

それこそが、神が今日のあなたの人生に望んでおられる力なのです！

召されたら、しもべの謙虚な心で従わなければなりません。

この本を執筆している最中、ジョージ・ブッシュ大統領の事務所から電話があり、キリスト教世界との連絡役として委員会に参加するよう要請されました。

最初は返事をせず、その機会について祈る時間を求めました。

そして彼らに電話をかけ直し、こう言いました。「もし神が私を用いて他の人々に奉仕し、神の力によって国の士気を高める手助けができるのであれば、私はそれをすべきなのです。」

私は信徒として教会で語り続けたいです。ブッシュ政権におけるこの新しいポジションでは、神が私を用いて、この国を偉大にした神的原則に立ち返るよう人々を励まし、神が御霊を注がれ、私たちが神の油注ぎを受けることができる場所へと導いてくださると信じています。私たちがこの現実の中で歩むとき、神は私たちの祈りに答えてくださるでしょう。

1961年、エルサレムで開催された世界ペンテコステ会議に4,000人の説教者たちとともに出席したときのことです。聖霊が、ユダヤ人の年老いた紳士のために祈ることを許してくれました。彼は背中をまっすぐに伸ばすことができませんでした。

私たちが外に集まって会議に入るのを待っていると、一人の女性が私に近づき、「シャカリアンさん、私の友人に重度の身体障害者がいます。この男性はあなたの助けを必要としています。」と言いました。彼女は、彼が市の郊外の傾斜面に場所に住んでいると説明しました。彼は、イエスが講堂で人々を癒していると聞いていたので、講堂に入るのをどうやって助けたらよいか彼女に尋ねました。入場するにはバッジが必要であることを知ったとき、誰かが私に話そうと提案しました。

もちろん、私の心はその小さな男性に向けられました。私は彼にバッジを渡すことにしました。彼にバッジを留めようと腰をかがめたとき、紛れもない声が私に言いました。「デモスよ、

あなたは今すぐ彼の癒しを祈りなさい。」

私はびっくりしました。

ここ？ 今？ 世界中から力のあるペンテコステ派の指導者が集まる場所でしょうか？

「デモスよ、ここにいるよ」と聖霊は答えました。

そこで私はその女性に、その男性のために祈りますと言いました。

私は彼のところにかがみ込んで尋ねました、「何が必要ですか？」

その男性は完全に痛みを苦しんでおり、まっすぐになることができませんでした。

曲がったまま、数字の7のような格好で立っていました。松葉杖のような棒をつかんで、明らかに痛そうに前後に揺れていました。

私は身を乗り出して彼を抱きしめました。彼の髪と服はぐちゃぐちゃで、洗っていない強烈な悪臭が体中に漂っていました。彼の汚い身なりと臭いを無視し、私はそれからこうシンプルに祈りました。

「イエスよ、この同じユダの丘で、あなたはあなたのもとに来たすべての人を癒しました。主よ、もしあなたが今ここに立っておられるなら、この兄弟を癒してください。」

これ以上、彼を苦しめないでください。

イエス、私は彼のために祈ります。私は彼を癒すことはできませんが、あなたは彼を癒すことができます。主よ、あなたは私にチャンネル(通り良き管)になるよう求めておられます。そして私は今あなたのチャンネルになります。」

兄弟、今からあなたのために祈ります。イエスがあなたを癒すことができると信じますか？それが私が来た理由です。それで祈り始めた。イエスよ、今すぐこの体からあらゆる痛みを取り除き、あらゆる関節をゆるめてください。イエスの御名によって、すべての痛みが関節から離れ、まっすぐ立てるように命じます！父よ、ありがとうございます。

それから私はユダヤ人男性に「兄弟、今からあなたのために祈ります。イエスがあなたを癒してくださいと信じますか？」と言いました。「だから私は来ました！」というのが彼の答えでした。それで祈り始めました。「イエス、今すぐこの体からすべての痛みを取り除き、すべての関節を緩めてください。イエスの御名において、すべての痛みが関節から離れ、まっすぐ立てるように命じます！父よ、ありがとうございます。」

「兄弟、今、お立ちなさい！」と私は彼に言いました。

彼はピクッと動きました。私にはそれが聞こえました。背中全体が指の関節をパチパチと鳴らすような音でした。瞬間、何かが折れる音がしました。

最初、私はこのか弱い小さな男性が何かを壊したのではないかと心配しました。しかし、彼から出たうめき声は痛みではなく、解放のためのものでした。ゆっくりと彼は背筋を伸ばし、勝ち誇ったように私の顔を見つめました。私たちの周りからは、大声で賛美の声が聞こえてきました。

しばらくすると、彼は私の眼前に立っていました。これ以上はありません。もう数字の7の

ような格好ではありません。私は彼が寄りかかっていた木の棒を取り、その女性に渡しました。 それを受け取ったとき、彼女は電気ショックを受けたようでした。

「奇跡だ、奇跡だ。」と彼女は叫び始めました。4,000人の説教師たちが彼女の叫び声を聞いていました。「奇跡とはどういう意味ですか？」と彼らは尋ねました。「この人を見てください。ほんの数分前まで、彼は足が不自由で、痛みにかがんでいたのよ。」と興奮した婦人は棒を振りながら答えました。

彼女は、敷地内を走り回り始めたユダヤ人を指差しました。彼はその夜の集会にも行き、バルコニーで飛び跳ねて「イエスが癒してくださったのは私です。」と言いました。

その夜、私がキング・デイヴィッド・ホテルに戻る途中、ユダヤ人男性は私と同じバスに乗りました。私を見つけるには、かなり機敏でなければならなかったのです。そして、私がキング・デイヴィッド・ホテルでバスを降りたとき、彼は私の前でお辞儀をして「ありがとうございました。」と言いました。

「いや、聞いてください。あなたはイエス・キリストに感謝すべきです！ 私が癒したのではありません。」と私は彼の感謝を訂正しました。

「わかりました。」と彼は答えました。

私は最後にもう一度彼を抱きしめ、別れを告げました。それ以後、彼と会うのも、彼から連絡もありませんでした。

終末の油注ぎ

男性諸君、これこそ神が皆さんの人生に解き放ちたいと望んでおられる奇跡です。しかし、この終わりの時の油注ぎを受ける準備をするためには、まず、毎朝ひざをついて、全地の神を全身全霊で称え、その聖なる御名を口と心で賛美し、神が与えてくださるすべてのものを必死に求め、神があなたの人生に聖霊を注いでくださるように求めなければなりません。

これはゲームではありません。これは現実なのです！

心を尽くし、精神を尽くし、魂を尽くして神を追い求めなければなりません。

この地球上の何ものも、より重要であってはなりません。神があなたの最優先事項であり、仕事のアポやテレビ番組の間に挟むような存在であってはなりません。そうすれば、神はあなたが想像もしなかったような方法で、あなたの人生に現れてくださるでしょう。

あなたが天に向かって情熱的な賛美を捧げ、高揚の甘い歌を歌うとき、神はあなたの心にますます近づき、ついには神の霊の奇跡的な動きによって、あなたと神はひとつになるのです。

「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。」(ヘブル 13:15)

第 6 章

イエスを賛美しよう！

神はこの終末の時に、私たちのために特別なことをしたいと願っておられると思います。私は本当に祈ってきました、「神様、このようなことが起こり得る場所で、私たちはどうやってあなたに近づくことができますか？」

それは、聖霊が「イエスを賛美しよう。人々にイエスを賛美するように言いなさい。私は聖霊の力を送るでしょう。主は人々を扱われるでしょう。」と言われました。

はい、私たちには人々をキリストに導く使命があります。

はい、私たちには十分の一の献金と捧げ物を神に捧げる使命があります。

しかし、神の子ができる最も重要なことは、主を讃えることです。

そうすることで、他のことは自然にできるようになります。

「『やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。』」(詩篇 46:10)

時々悪魔は私たちを落胆させようとしますが、私たちは悪魔の嘘に耳を傾けることはできません。

数日前、私はインドネシアからのフェローシップリーダーの一人に会いました。彼は、非常に裕福なイスラム教徒の友人に FGBMFI の昼食会に出席するよう招待したについて話してくれました。このイスラム教徒は、全世界最大の企業の一つのトップでした。

招待状を受け取ると、イスラム教徒はこう答えました。「行きますが、30 分以上そこにいるわけにはいきません。この後、とても大きな仕事の約束があるのです。」

そのイスラム教徒の実業家は FGB 集会に来ましたが、そこでの油注ぎは非常に強かったと、このイスラム教徒実業家は言いました。「先生、電話を使ってもいいですか？ 約束があるのですが、今はこの会場から出ることができません。」

彼はオフィスに電話し、約束を 30 分延期しました。

30 分が経過したとき、彼は再び電話を使い、重要な仕事の予定を延期するよう求めました。

「この会場から出ることはできない」と彼は説明しました。

「私の中で何かが起こっている。私はここに留まらなければならない。」

次の 30 分が経過したとき、彼はついにオフィスに電話し、その日の残りの予定をすべてキャンセルしました。するとその人は救われ、聖霊に満たされました。

その集会の後、元イスラム教徒の実業家は、私たち FGB の代表者を彼の巨大な工場に来て従業員全員に福音を伝えるよう招待しました。その時、神の力がこれらの工場労働者に臨み、多くの人が救われました。

インドネシアの集会にあったのと同じ力が、クリフトンのカフェテリアでの私たちの朝食会にもありました。「初めての人」の中には、最初は聖霊の力に怯える人もいましたが、彼らはいつも神の力を求めて再び戻ってくるようでした。

現在、ハイ・アドベンチャー・ミニストリーの会長であるジョージ・オーティスは、私たちの集会の一つで聖霊を受けています。神が彼を通して何をなさったかを見てください。ジョージはこのフェロシップにはまったく面識がなかったが、洗礼を受け、今では神は彼の「希望の声」国際ラジオネットワークを通じて彼を力強く用いておられます。

ちょうど今年、彼の巨大な国際ラジオネットワークが中国とアジアに福音を伝え始めました。私がここで話した男性たちは、時には落ち込んだり落胆したりしましたが、人生の中で、最も困難なときこそ、イエスを讃美する必要があることを学びました。

あなたがイエスを讃え、悪魔はたちまち動き出すでしょう。ご存知のとおり、彼はキリストの血に耐えることができません。

あなたがイエスを賛美すると、イエスは喜んで、あなたの神聖な崇拜をさらに祝福してください。

悪魔が主イエスを誘惑しようとしたとき、イエスはこう答えました、『あなたの神、主を試みてはいけない』と書いてある。

イエスは主に焦点を当てました。イエスは神を讃えました。

イエスがマリヤとマルタの家に来られ、マルタが働き、食事の準備をし、イエスを安心させるために残しておいたすべてのことをして回ったとき、マルタはマリヤが助けていないことに気づきました。彼女はイエスに言いました、「私の妹はどうしたのですか。彼女はただイエスの足もとに座って礼拝しているのです。」

イエスはマルタに言われました、

「主は答えて言われた。『マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。」

しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。』(ルカ 10 : 41~42)

イエスは礼拝が先であることを知っていました。

礼拝は私たちと神との関係のすべてが始まる場所です。

神は私たちが何をするかではなく、心の中で私たちがどんな人間であるかを気にかけておられます。私たちが神を賛美する姿勢を持つと、神は喜んでくださいます。私たちは自分自身のことを忘れて神を讃えなければなりません。

「主は生きておられる。ほむべきかな。わが岩。あがむべきかな。わが救いの岩なる神。」
(IIサムエル 22 : 47)

今の時代に向けた普遍的なメッセージ

私の経験では、主が特定の時期にメッセージを発せられるとき、世界中の敬虔な男性と女性の心の中にそのメッセージが生まれます。

私たちがここ FGBMFI 本部で受け取った証しの最新情報は、私にとってとても役に立ちました。それは、神がこれと同じメッセージを他の人たちに与えておられること、つまり何よりも讚美を与えてくださっているということを私の心の中で確認したからです。

ケン・イブバス氏の最新の証しで私が読んだ内容は次のとおりです：

この2年間、私は以前ほど保険の申込書を書くことに一生懸命ではありませんでした。私は、自分のビジネスを続けるだけでなく、高齢者の役に立つ他のことに進むという神の御心と思われるものを受け取りました。

1985年、私たちのコミュニティの基幹であった製材所がなくなり、町の経済は徐々に坂を下っていきました。

私は保険の掲示板にこう書きました。『神の民はレバノンに偉大な産業が生まれるよう祈ります。』

1990年中、私は町に活気を取り戻す何かが起こるように祈り続けました。その後、断食せざるを得ないと感じ、1990年4月22日から5月15日までの23日間断食しました。私は、給与の大幅な増加を意味する国営企業に転職するというオファーを受けましたが、私の祈りと夢が私をその選択肢から遠ざけているようでした。

神から私に与えられた重荷は、私に2つの分譲地を確保して開発するよう駆り立てるものでした。その目的は、複合施設とコンドミニアムを建設し、それを適正な価格で販売し、そのお金で高齢者向け複合施設や低所得者向けの手頃な価格の住宅を建設することでした。

神からの私への指示は、元の団地を売却しても経済的には利益を得られないが、そのお金はすべて高齢者向けおよび低所得者向け住宅の建設に充てられるというものでした。

最初の2つの複合施設は1992年の夏に販売されます。これは、私が掲示板に載せた時から7年になります。そして、私が最初に目覚めた時からちょうど1992年2月28日で7年9か月と3日です。真夜中に、このプロジェクトに「崇高な企業であることを意味する ABE Enterprises」という名前を付ける必要があると考えました。

この重荷全体は伝道者の書で説明されています。

「あなたの手もとにあるなすべきことはみな、自分の力でしなさい。あなたが行こうとしているよみには、働きも企ても知恵もないからだ。

私は再び、日の下を見たが、競走は足の早い人のものではなく、戦いは勇士のものではなく、またパンは知恵ある人のものではなく、また富は悟りのある人のものではなく、愛顧は知識のある人のものではないことがわかった。すべての人が時と機会に出会うからだ。」(伝道者 9：10～11)

ああ、私たちの国中、そして世界中に御霊が働いてくださったことを神にどれほど感謝していることでしょうか。聖霊が世界中の男女の上に働かれ、神を最優先していること、つまり何

よりも神を讃えることを、私はどれほど神に感謝していることでしょう。

もしあなたが今、神の霊があなたに向かって動いていると感じているなら、どうかあなたの霊に加わって、私が書き留めたこの祈りを唱えてください：

ああ主よ、あなたの聖霊に感謝します。私たちはあなたを讃美します。イエス、あなたの言葉はとても尊いのです。ステパノが殺されたにもかかわらず、あなたを讃美することに没頭し、正直なところ、彼は一瞬たりとも痛みを感じなかったと思います。あなたは彼に天国の一部を見せて、彼が見上げて父の右にいるあなたを見ることができるようになりました。

ステパノが殺されたにもかかわらず、あなたを讃美することに没頭し、正直なところ、彼は一瞬たりとも痛みを感じなかったと思います。

あなたは父に至るまで、王座に至るまでずっと高められておられます。あなたは今、天の玉座に座って、私たちの祈りを聞き、受け取っておられます。

主よ、私たちを助けてください。私たちを祝福してください。あなたが望むものについて、私たちの心の中に新しい考えを開いてください。私たちはあなたを愛しています、イエス。これまで何年もの間、私たちにあなたのために働く特権を与えていただき、ありがとうございました。私たちはただあなたをとっても愛しています。感謝してもしきれません。父なる神よ、あなたのためにもっと何かをする重荷を私たちに与えてください。やるべきことはまだまだたくさんあります。あなたが私たちに課したすべての任務を達成するための重荷とあなたの力を私たちに与えてください。イエスが再び来られる前に、私たちにできることはすべて行い、あなたの御名を讃え、高めたいと思っています。アーメン。

「主よ。あなたは私の神。私はあなたをあがめ、あなたの御名をほめたたえます。あなたは遠い昔からの不思議なご計画を、まことに、忠実に成し遂げられました。」(イザヤ 25 : 1)

第 7 章

礼拝＝最優先事項

神の礼拝と讃美は選択肢ではなく、神の言葉の中で最も優先されるものです。

出エジプト記第 20 章で、神が十戒を明らかにされたとき、最優先事項は、他のすべての神を排除して主を礼拝することでした。

「『わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。』」(出エジプト 20 : 2～3)
新約聖書の中でイエスはこう言われました：

「イエスは答えられた。“一番たいせつなのはこれです。”『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』」(マルコ 12 : 29～30)

神は礼拝を最優先にされます！

主が旧約聖書(レビ記 7 章から始まる)で礼拝のための神殿の建て方を指示されたとき、主の願いを明らかにし、礼拝会堂が相応しい適切な方法で建てられたことを確認するのに数章を要しました。

神はご自分の民と、民がどのようにご自分を礼拝しているかを気にかけておられました。礼拝は新約聖書と旧約聖書の両方で生きるための規範です。神を讃えることが私たちの主な責任です。

かつて A・W・トージエはこう書きました；「人間は神を礼拝するように作られました。礼拝は現代の福音主義において欠けている宝石です。主は民の賛美を住まいとされます。」

「けれども、あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。」(詩篇 22 : 3)

「イエスは言われた。“引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。”」(マタイ 4 : 10)

礼拝は奉仕の前にも行われます。

「“しかし真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。”」(ヨハネ 4 : 23～24)

偽の偶像に気をつけましょう！

あなたが神の代わりに礼拝するものはすべて偶像です。神とあなたの間にあるものはすべて偶像です。金の子牛は偶像であり、礼拝の真実の概念を侵害しました。いずれの場合においても、神は偽りの神々を礼拝するこの慣行に強く反対されます。

「それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」(出エジプト 20 : 5 ~6)

詩篇はほぼ専ら神を讃えるために書かれており、天の御父にとって神を讃えることが最優先事項であることは明らかです。

「御名の栄光を、主に帰せよ。聖なる飾り物を着けて主にひれ伏せ。」(詩篇 29 : 2)

「主に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。朝に、あなたの恵みを、夜ごとにあなたの真実を言い表すことは。」(詩篇 92 : 1 ~2)

「息のあるものはみな、主をほめたたえよ。ハレルヤ。」(詩篇 150 : 6)

賛美とは、「主よ、この悲惨な世界から私を救ってくださいありがとうございます」と言うことです。

礼拝とは、「主よ、あなたがいてくださることに感謝します。」と言うことです。

礼拝は聖書のかなり早い段階で登場します。私たちが初めて礼拝を見るのは、アブラハムがこう言ったときです。

「それでアブラハムは若い者たちに、『あなたがたは、ろばといっしょに、ここに残っていないさい。私と子どもはあそこに行き、礼拝をしてあなたがたのところに戻って来る』と言った。」(創世記 22 : 5)

さて、思い出してください、これはアブラハムが自分の息子を犠牲として神のもとに連れてきたときでした。これは父親が神のためにできる最高の礼拝行為です。アブラハムは、神を礼拝するために、自分の持っているすべてを喜んで捧げました。それは、彼の一人息子イサクでした。

礼拝には参加が不可欠

皆さん、私たちは自分自身の礼拝を遠慮することはできません。私たちは、礼拝と頌栄が私たちの人生の選択肢ではないことを認識しなければなりません。それらは生ける神からの命令です。神を全世界の中で何よりも第一に置くことです。私たち自身の家族よりもです。

礼拝は神の考えであり、礼拝の行為は常に神によって注意深く導かれてきました。神はアブラハムに息子を捧げる方法について非常に具体的な指示を与えました。神は神殿の建設者たちに非常に具体的な指示を与えました。神は私たちがどのように神を礼拝するかを気にかけておられます。

礼拝は神の命令の結果として私たちに関わる活動であり、受け身であってはならず、積極的に参加するものでなければなりません。

アブラハムは積極的に息子を祭壇に連れて行き、究極の従順の行為としてナイフを振り上げ

なければなりませんでした。彼はその過程に参加しました。

教会では 45 分間座って力強い説教を聞くことができますが、必ずしもそれに参加する必要はありません。

天の御父を讃えるときは、口を開いて心から言葉を溢れさせなければなりません。

受け身で礼拝することはできません。

礼拝には私たちが提供できる最高のものがが必要です。

アブラハムが神からこの命令を受けたとき、どのように感じたでしょうか。

「神は仰せられた。『あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。』」（創世記 22：2）

神はアブラハムに何か簡単なことを求めたわけではありません。礼拝は安為で気軽な行為ではありません。

礼拝には何らかの費用がかかります。

ダビデが神に礼拝と栄誉を与えるために神殿を建てに行ったとき、アラウナは事業企画に必要な資材を提供すると申し出ました。しかしダビデは丁重に断り、こう言いました。

「しかし王はアラウナに言った。『いいえ、私はどうしても、代金を払って、あなたから買いたいのです。費用もかけずに、私の神、主に、全焼のいけにえをささげたくありません。』そしてダビデは、打ち場と牛とを銀五十シケルで買った。

こうしてダビデは、そこに主のために祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげた、主が、この国の祈りに心を動かされたので、神罰はイスラエルに及ばないようになった。」（Ⅱサムエル 24：24～25）

ダビデは神のために神殿を建てたいと考えていましたが、礼拝行為は個人的に何かを犠牲にするものでなければなりませんでした。

礼拝とは、神に価値を返すこと、敬意の表向きのしるしとして、地面でうやうやしく神の前にひれ伏すこと、そして神だけにふさわしい栄光を神に与えることを意味します。

「また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげるとき、

二十四人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御座の前に投げ出して言った。

『主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。』（黙示録 4：9～11）

主を知っているなら、神がなさったことを祝わなければなりません。

祈りの前に賛美しましょう！

聖書では祈りについてよりも賛美について多くのことが述べられています。神の被造物である人間だけが、音程やハーモニー、そして歌を通じてコミュニケーションをとることができ

ます。

人間のように歌うことができる動物はいません。

キリスト教は世界の宗教の中で唯一音楽的な宗教です。

天国は音楽の究極の故郷です。「アメイジング・グレイス」の歌詞を歌うと、今でも心がうずきます。

「私たちがそこにおいて1万年経っても、私たちが最初に始めたときよりも、神を賛美するために必要な日数は少なくありません。」

礼拝は会衆内のすべての人の責任であり、心からの応答です。

第1歴代誌23章5節では、4000人が楽器を使って主を賛美しました。

「『そして、四千人は門衛となり、四千人は私が賛美するために作った楽器を手にして、主を賛美する者となりなさい。』」（1歴代誌23：5）

賛美=復活

何度も男性たちが私のところに来て、こう言います。「デモス兄弟、神はいつアメリカ全土にリバイバルをもたらされますか？」

私は彼らに、リバイバルは常に讃美と礼拝の後に、そして音楽と密接に結びついて起こることを伝えます。これらの要素は私たちの霊的な生活とリバイバルに不可欠です。

歌と賛美は神の御霊に満たされたことの直接の結果です。

「また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。詩と賛美と霊の歌をもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。」（エペソ5：18～19）

「キリストのことばをあなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」（コロサイ3：16）

イエスと弟子たちも最後の晩餐の後に一緒に賛美の歌を歌いました。

「そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリーブ山へ出かけて行った。」（マタイ26：30）

皆さん、讃美、頌栄、礼拝は神の最優先事項です。

この終わりの時に聖霊が私たちに注がれるのであれば、讃美、頌栄、礼拝も私たちの優先事項でなければなりません。私たちの優先順位が決まったとき、聖霊は私たちにご自身を注いでくださいます。

「しかし、この私は、あなたの力を歌います。まことに、朝明けには、あなたの恵みを喜び歌います。それは、私の苦しみの日、あなたは私のとりで、また、私の逃げ場であられたからです。

私の力、あなたに、私はほめ歌を歌います。神は私のとりで、私の恵みの神であります。」
(詩篇 59 : 16~17)

第 8 章

礼拝の勝利

賛美と礼拝は霊的戦いの鍵です。

礼拝と戦争は結びついています。

旧約聖書では、イスラエルの人々にとって、戦争と礼拝の間には直接的なつながりがありました。彼らの礼拝が正しくなかったら、彼らの戦争も正しくありませんでした。それは密接に統合されていました。

「わたしの民はわたしに対する背信からどうしても離れない。人々が上にいます方に彼を招いても、彼は、共にあがめようとはしない。」(ホセア 11 : 7)

神の民が礼拝において正しくないとき(ヨシュア記のように)、彼らは出て行って徹底的に打ち負かされました。礼拝するとき私たちが清い手と心を持っていなければ、敵を倒す能力は低下します。

若者は悪魔崇拜者を打ち負かします！

カリフォルニア州エルカホンにあるスコット記念バプテスト教会の主任牧師であるデイビッド・ジェレマイア師は、最近、自身のラジオ番組「ターニングポイント」で、私の心に深く響いた話を語りました。ここで改めて語る価値があると感じます。それはアラバマ州の会衆についてであり、彼らが主を讃美することによってどのようにして街の様子を永遠に変えたかについての物語です。

1987年、アラバマ州南東部で、誰も説明できない十代の自殺が急増しました(地元の新聞で読んだことがあるかもしれません)。リック・ハギングスという名前の南部バプテストの説教者は、この地域にこれらの自殺を引き起こしている悪魔的な何かが存在することを知っていました。それは、人生の出来事を劇的に吹き飛ばすティーンエイジャーの自然な傾向を超えた何かです。

実際、リックは心の中で、これらの十代の自殺を悪魔崇拜と結びつけていました。なぜなら、その特定の都市では悪魔崇拜が拡大していたからです。

若者たちに奉仕する中で、そして彼らが友人について何を言っているかを聞いて、リックは自殺願望のある子供たちに起こっていることと悪魔崇拝の増加との間に何らかの関連があるに違いないと悟りました。彼の青少年グループの子供たちの何人かは彼は悪魔崇拝者の内輪について話し、高校で最も人気のある男子生徒の一人である彼らの友人は、自分がカルトに関わっていると告げました。彼はカルトから抜け出したいと思っていましたが、指導者たちは彼を逃がすことはできないと言いました。この若者は自分のカルトが自分に何をするかを非常に恐れていたため、他の友人にこう言ったことがあります。「それを知っておいてほしい。もし私が死体で発見されたら、私を殺したのはカルトのメンバーだということになる。」数週間後、まさにその少年が、排気管のホースが手首にテープで貼り付けられた状態で、車の中で死亡しているのが発見されました。捜査当局は、この少年は窒息による自殺で死亡したと断定しましたが、リック師の青少年グループの若者たちはよく知っていました。彼らは、この少年に制御できない何かが起こったことを知っていました。

リック牧師は、他のクリスチャンを霊的戦争に動員することを決意しました。彼は、これらの自殺が起こっている小さなコミュニティの警察の捜査員の何人かに会いに行きました。そして、彼らとの会話から、悪魔のカルトのメンバーが非常に活発であることを発見しました。実際に名前を書いて、さまざまな生徒を自殺のターゲットにしていました。学生が自発的に自殺しなければ、グループは学生を殺害し、自殺に見せかけます。

どうやら、このカルトには大人のメンバーさえも関与していたようで、信じられないかもしれませんが、一部の牧師さえも関与していたと報告されています。

リック師は、これが激しい霊的な戦いであることを知っていたので、一週間毎日、若者のグループと一緒に、自殺が最も頻繁に起こっている場所に行き、主を礼拝し、賛美し、その地域を清めに清めました。

挑戦状が発行されました！

そして、行進の言葉は旧約聖書のエリヤの物語からとることにしました。リック師は、エリヤが山の上に立ってバアルの預言者たちと対峙し、「本当の神が誰であるかを見てみましょう」と宣言して彼らに挑戦したことを思い出したと述べました。

「『あなたがたは自分たちの神の名を呼べ。私は主の名を呼ぼう。そのとき、火をもって答える神。その方が神である。』民はみな答えて、『それがよい。』と言った。」(I列王記 18:24) エリヤはバアルの預言者たちと対峙しました。旧約聖書の悪魔崇拝者たちが彼らの神に話しかけようとしたとき、応答はありませんでした。

ただ沈黙だけ。

エリヤは彼らを嘲笑しました。

「真昼になると、エリヤは彼らをあざけて言った。『もっと大きな声で呼んでみよ。彼は神なのだから。きっと何かに没頭しているか、席をはずしているか、旅に出ているのだろう。もしかすると、寝ているかもしれないから、起こしたらよかろう。』」(I列王記 18:27) エリヤと同じように、リック師も地域社会の悪魔の勢力に立ち向かうことを決意しました。

彼はラジオとテレビに出て、ハロウィーンの夜、真夜中に墓地に自分と信者たちがそこにいると発表し、そして、このすべての邪悪な行為に責任がある者たちを招き入れました！

リック牧師は、イエス・キリストの福音と聖霊の力で悪魔カルトに立ち向かうつもりでした。ハロウィーンの夜がやって来て、真夜中、リック師と彼の友人たちは悪魔のカルトに立ち向かう準備ができて墓地に立っていました。

賛美による戦い！

リック師は言いました、「私はいつも祈りと説教で悪魔と戦ってきました。しかし、どうすればよいのかと祈っていると、神はその夜、説教に焦点を当てるべきではない、代わりに神を賛美し、礼拝をするべきだと言っておられるようでした」

「私たちは 12 フィート (3m60cm) の十字架を作り、カルトの人たちが来たときに配りに行くつもりでトラクトの入った袋を各自持っていました。私たちは十字架を立て、悪魔崇拝者たちに見えるように十分な光を当てました」しかし、私たちは神を礼拝し、賛美すること以外は何もしませんでした。

クリスチャンの若者たちはその暗い墓地の中心に集まり、「ありのままの私」、「荒削り十字架」、「アメイジング・グレイス」など、古くからよく知られた賛美歌をたくさん歌いました。私たちはその墓地で神を讃えました。

すると、敵がやって来ました。

何という不気味な夜だったでしょう（実際の衝突が起こった場所の近くの墓地の人里離れた場所で、彼らは後で悪魔崇拝者が実際に牛を犠牲にして屠殺し、内臓を取り出して地面中に吐き出したことを発見しました）！

悪魔のような群衆が歌手の周りに集まり始めると、彼らは私たちが野次ったり嘲笑したりし始めました。多くは幽霊や血まみれの吸血鬼などのハロウィーンの衣装を着ていました。

しかし、これらの恐ろしい衣装は若者グループの邪魔とはなりません。代わりに、クリスチャンの若者たちは神を賛美し、礼拝し続けました。

「私たちは戦争のような祈りはしませんでした」とリック師は言いました。「私たちは呪いを解いたり、要塞について話したりしませんでした。私たちがしたのはただ神を賛美し、礼拝することだけでした。私たちがそうすると同じように、神の御霊が群衆を魅了したようでした。」

彼らは野次をやめました。

彼らは挑発をやめました。

悪魔崇拝者たちは何時間も釘付けになったかのようにそこに座り、若いグループが主への賛美を歌いました（この若者たちはプロのミュージシャンではありませんでした。彼らはギターさえ持っていませんでした）。

そして午前 4 時、4 時間近く神への賛美と礼拝に耳を傾けていた悪魔の一団は去っていきま

した。

クリスチャンの若者グループに対して一度も脅迫がなされたことはありません。

そして、新聞報道によると、その夜以来、そのコミュニティでは 10 代の自殺者はなくなりました。

アラバマ州の十代の若者たちの命を早々に奪った悪魔の呪いは、ハロウィーンの夜、あの墓地でまさにそこで終わりました - 神を礼拝し賛美する力によって。

命をかけた戦争

礼拝と賛美は霊的戦いの手段です。

あなたが現在プレッシャーにさらされている場合、いくつかの困難な時期を経験している場合、おそらく、あなたの力を超えていると思われる戦いに直面している-壊れた結婚生活、子供たちとの問題、絶望的な経済的問題、あなたを落胆させようとする悪魔の嘘-今すぐにあなたの家でいくつかの礼拝音楽を流し始めてください-そして主に向かって大声で歌って礼拝に参加してください！

神を礼拝し、人生の模範として神を賛美しましょう。そうすれば、どんな状況でも敵を倒すことができるでしょう。

献金による礼拝

何かを捧げずに神を礼拝することはできません。だからこそ、私たちの喜びに満ちた十分の一の献金と捧げ物が神にとって非常に重要なのです。

何人かの牧師は、お金については決して言及しないと私に言いました。

しかし、もし彼らが旧約聖書の信者たちが神を崇拜するために何をしたかを本当に理解していれば、お金を捧げることも神を讃えるもう一つの方法であることに気づくでしょう。

レビ記には、すべてのいけにえの長い一覧表があります。全焼のいけにえは、罪のための自発的ないけにえです。傷のない雄牛、または傷のない雄の羊、またはキジバトと若いハトです。今日、穀物の捧げ物、または小麦粉と乳香を混ぜた捧げ物を持って教会に来ることを想像できますか？

確かに想像できません。

しかし、神はあなたが十分の一と捧げ物を持って来るのを期待しています。なぜなら、ダビデが知っていたように、神を礼拝しながら、何も捧げないということはありませんからです。

「それから、イエスは献金箱に向かってすわり、人々が献金箱へ金を投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持ちが大金を投げ入れていた。」(マルコ 12：41)

イエスは、哀れな未亡人がレプタ銅貨を二つ投げ入れているのに気づきました。これを目撃したとき、イエスは弟子たちに、この女性が他の人よりも多くを与えたことに注目するように呼び掛けました。

「すると、イエスは弟子たちを呼び寄せて、こう言われた。『まことに、あなたがたに告げます。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れていたどの人よりもたくさん投げ入れました。みなは、あり余る中から投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、生活費の全部を投げ入れたからです。』」(マルコ 12：43～44)

礼拝は心から始まります！

イエスは、私たちが何を大切だと信じているかを見極めるために、私たちの心に目を向けてくださいます。イエスは、この世のものを大切にしすぎることについて私たちに警告しておられます。

「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。

自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。

あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」(マタイ 6 : 19 ~ 21)

旧約聖書では、手ぶらで教会に来る人はいませんでした。彼らは、「神様、私はあなたを愛しています、あなたを礼拝したいです！」と言うために何かを持ってきました。

自己、実体、そして賛美の関与なしでは礼拝することはできません。ヘブル人への手紙は旧約聖書の聖典を取り上げ、それを真実の背景として使用しています。使徒たちがキリスト教を理解できるようにする唯一の方法は、キリスト教をユダヤ人と関連づけることでした。ヘブル人への手紙 13 章では、新しい祭壇と、天の御父に犠牲を捧げる新しい方法について学びます。

「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。」(ヘブル 13 : 15)

使徒の働き第 16 章には、殴られて打撲傷を負ったパウロとシラスが、真夜中に獄中で神に賛美を歌い始めた場面があります。

「真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。」(使徒 16 : 25)

それから何が起こったか見てください。

「ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。」(使徒 16 : 26)

この刑務所の土台の揺れは彼らの賛美から始まりました。その結果、刑務所の番人は非常に感動し、イエス・キリストを自分の主として受け入れ、バプテスマを受けました。

そしてパウロとシラスは祈りと賛美によって刑務所から解放されました。

礼拝の意味

礼拝という言葉は「神の前にひれ伏す」を意味します。それは、感謝と服従の内向きの態度の外向きの象徴として、頭を下げたり、ひざまずいたりする行為です。

私たちの手は礼拝の器官です。私たちが手を上げていることも賛美です。これをするとき、私たちは「主よ、ここにいます」と言っているのです。

挙手は降伏の国際的なサインです。

イラク戦争においてさえ、英語を話せない人々が降伏を望むとき、彼らは世界共通のサインで挙手されることを知っていました。

私たちがキリストについて垣間見た最後の 2 つの場面では、彼は手を上げて天に戻っていか

れました。

「それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。

そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、いつも宮にいて神をほめたたえていた。」(ルカ 24：50～53)

主を讃えることが私たちのあらゆる行いの中心でなければなりません。

「あなたの恵みは、いのちにもまさるゆえ、私のくちびるは、あなたを賛美します。

それゆえ私は生きていくかりぎ、あなたをほめたたえ、あなたの御名により、両手を上げて祈ります。」(詩篇 63：3～4)

神が完全にくつろいでおられるのを見たいなら、それは私たちが神を賛美するときです。

イエスがサマリアでその女性に会ったとき、彼女は話し合いの中でこう言いました：

「『私たちの父祖たちはこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。』」(ヨハネ 4：20)

これに対してイエスは答えられました：

「『救いはユダヤ人から出るものですから、あなたがたは知らないで礼拝しています。

しかし真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。』」(ヨハネ 4：22～23)

この箇所の最後の行を見てください。神はご自分を礼拝する人々を探しておられます。

神を礼拝し始めましょう！

主あなたは神の探求に対する答えになられるのです。

主あなたは私たちの神の情熱を満足させることがおできになります。

私は正直に天国では説教はないと信じています、ただ賛美だけです！

永遠に、私たちの究極の目的は、この詩篇の言葉を主に向かって何度も何度も歌うことができることが分かるかもしれません。

「ハレルヤ。神の聖所で、神をほめたたえよう。御力の大空で、神をほめたたえよう。

その大能のみわざのゆえに、神をほめたたえよ。そのすぐれた偉大さのゆえに、神をほめたたえよ。

角笛を吹き鳴らして、神をほめたたえよ。十弦の琴と立琴をかなでて、神をほめたたえよ。

タンバリンと踊りをもって、神をほめたたえよ。緒琴と笛とで、神をほめたたえよ。

音の高いシンバルで、神をほめたたえよ。鳴り響くシンバルで、神をほめたたえよ。

息のあるものはみな、主をほめたたえよ。ハレルヤ。」(詩篇 150：1～6)

究極の次元

数年前、私は「究極の次元」というタイトルの小さな小冊子を書きました。この本は、これまでにほとんどの人が経験したことのない霊な力の次元について説明しましたが、この次元は、この終わりの日にすべてのクリスチャンに利用可能になると私は信じています。

これまで、私たちの多くは神の「何か」を知ろうとし、神の声を「時々」聞くことで満足し、聖霊の内存在が私たちの神との最も親密な関係であると心から信じてきました。

しかし、この終わりの時代において、神は、神ご自身が提供される究極以外のものでは満足しない特別な人々を求めており、その経験は一方的なものになるでしょう。ペンテコステが始まったのと同じように、全能の神への深く誠実な高揚を通して！

神はすべてを賭けて挑戦する人を求めています。

あなたの人生にもっと神を取り入れたいと思いませんか？

そうするなら、喜んで犠牲を払い、祈り、賛美しなければなりません。それが、この終末の時に向けた神の特別な計画の解放の始まりです。

祈りと賛美を通して、イエスとの完全な一体性を目指して今から真剣に努力を始めてください。主の本質があなたの本質であることを望み、主の言葉があなたの言葉であることを望みます。主の知識があなたの知識であること、主の愛があなたの愛であることを望みます。

賛美をもって神の門に入るとき、私たちは神と一つになることができます。そうすれば、全世界は私たちが行う奇跡と私たちが動かす山々に驚くでしょう。

神のための従業員はいません！

これまで、私たちとイエスとの関係は、雇用主と従業員のような関係が多かったです。私たちは二人とも同じ基本的な環境と一般的な目標を共有していますが、同じ情熱、同じ心、同じ熱意を共有していないことがよくあります。

従業員が会社のために進んで犠牲を払うことはめったにありません。

神は従業員を求めているのではなく、自分の御霊の共同所有者を求めておられるのです。神はあなたの賛美に宿ることを望んでおられます。

「私たちはキリストのからだの部分だからです。」(エペソ 5：30)

私たちが祈りと賛美を通してイエスと一つになるとき、私たちは神ご自身によってイエスと一つにされるのです。

エペソ人への手紙 2章5節～6節 にはこう書かれています。

「罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、—あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです—

キリスト・イエスにあって、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。」(エペソ 2：5～6)

私たちの究極の次元は、イエスと一つになることで、私たちがイエスのように生き、イエスが歩まれたように歩き、イエスがされたように奇跡を行い、御父の御心を知り、神が定めた終末の目的を達成するためにすべてを喜んで犠牲にすることができるようにすることです。そしてその次元を歩むことは祈りと賛美から始まります。

もしあなたがその次元を歩みたいのであれば、たとえ犠牲が何であれ、喜んで神の御心を求めて実行しなければなりません。

イエスは、殴打、いばらの冠、柱での鞭打ち、十字架上での死を喜んで経験するほど、ご自分を空っぽにされた！

それらの苦痛な経験はイエスの望みではありませんでしたが、それがイエスの時代に対する

父の御心であることをイエスは知っておられ、理解されてきました。

イエスが父との特別な関係を享受できるように、イエスは弟子たちのために規範を示されました。好むと好まざるとにかかわらず、犠牲は靈的な規範の一部でした。

「それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。」Ⅱコリント 1：5)

御子の規範に従ってください！

イエスは自分自身の欲望、自分の計画、自分の必要をまったく空っぽにされ、イエスの唯一の目標は、自分を遣わされた神の意志を達成することでした。イエスは父の近くに住んでいたため、父の意志にないことは何もできませんでした。

イエスは例を挙げられました。

皆さん！自分の人生は常に永遠と隣り合わせであることを自覚しましょう。神は、私たちが神を知り、やがて時間から永遠へと向かうことができるように、永遠から時間へと私たちのもとに来られた。

祈りと賛美を通して生まれる情熱とビジョン、それが、ほとんど活用されないクリスチャンと、大いに活用されるクリスチャンの違いです。賛美と祈りは私たちがイエスとの一体性へと導きます。

神の終末の動きは非常に強力であるため、神との歩みが非常に近くなり、モーセのように私たちの顔が超自然的な光で輝く日が来ると私は信じています。

「アロンとすべてのイスラエル人はモーセを見た。なんと彼の顔のはだが光を放つではないか。それで彼らは恐れて、彼に近づけなかった。」(出エジプト 34：30)

今日から祈りを強め、人生を賛美し始めてください。そうすれば、神はあなたに、イエスと一つになりたいという願望、情熱、すべてを消費する意欲を与えてくださるでしょう。

そうすれば、同じ神の霊で、同じ目標を共有し、同じ熱意、同じ愛、そして神の栄光のために犠牲を払うという同じ無私の意志で人々が集まり、私たちの慣習が奇跡的な団結に動員されると私は信じています。

私たちは団結、目的、力、賛美の情熱において一つになります！

神を賛美してください。そうすれば、イエスが御父の御心を行うために持っておられたのと同じ、あのペンテコステの日曜日に 120 人の使徒たちが抱いたのと同じ、神の働きを行うための永遠のビジョンと情熱を神があなたに与えてくださるでしょう。

イエスは、この地球上でこれまでに見たことのない規模の奇跡を生み出す激しさで歩まれました。しかし、この偉大な人、神の子は、私たちにイエスに従うように命じられました。

「あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。」(ヨハネ 17：18)

そして、その後、イエスは宣言されます。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行うわざを行い、またそれよりもさらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。」

(ヨハネ 14：12)

神は私たちが遣わしてくださっただけでなく、私たちが神の御業、さらにそれ以上の業を行うとおっしゃいました。

神は、あなたと私が、2000年前にイエスが示されたよりもさらに大きな力で機能することを意図されています。

私たちは神に選ばれた者です

今こそ、神が、霊的一体性の現実が起こるまで、賛美をもって神の聖なる門に入る意欲のある特別な選ばれた人々のグループを立ち上げられる時です。

神は、終末期の特別な人々を求め、準備しておられます。その人々は、霊的な生活において飛躍的な進歩を経験することができるように、個人的な生活において喜んで犠牲を払う用意ができています。

レオナルド・レイヴンヒルは、『なぜリバイバルが遅れるのか』という古典的な本の中で、「私たちは祭壇を変えなければなりません。祭壇は死ぬ場所だからです。この代償を払わない人は放っておいてください！」と書いています。

あなたがこの本を読み終えるとき、それはあなたが天の御父とともに祈りと賛美の新たな次元に入る始まりとなり、自らを祭壇の上に置き、御自分のあらゆる必要を主の至高の御心に捧げようとするときとなりますように願っています。

これらは、あなたを鼓舞するための単なる激しいスローガンではありません。

これは神からの神聖なメッセージです。霊的歴史におけるこの重大な終わりの瞬間に、神が私に与えてくださった正確な啓示です。

まさに天国の中庭に入り、体験する時が来ました。

「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、はいれ。主に感謝し、聖名をほめたたえよ。」(詩篇 100：4)

イエスと絶対的な一体性の関係に入るまで、イエスを高めるよう努めてください。

「角笛を吹き鳴らして、神をほめたたえよ。十弦の琴と立琴をかなでて、神をほめたたえよ。

タンバリンと踊りをもって、神をほめたたえよ。緒琴と笛とで、神をほめたたえよ。

音の高いシンバルで、神をほめたたえよ。鳴り響くシンバルで、神をほめたたえよ。

息のあるものはみな、主をほめたたえよ。ハレルヤ。」(詩篇 150：3～6)

皆さん、私たちの現代世界は、罪の洪水の中で再びイエスを十字架につけました。その汚染を私たちが人類と呼ぶ下水道に注ぎ込みます。受肉したキリストは、私たち自身の完全な人間の拒絶によって再び墓に置かれました。私たちは現代の釘を打ち込みました。神学的批判者の手に渡しました。私たちは、イエスが「ただの」偉大な預言者であり教師であったと主張することによって、イエスの神の縫い目のない着物をイエスから引き裂きました。御力は去り、神の栄光は消え去りました。

しかし、聖地で償いをし、再び小羊の血によって清められる時が来ました。
祈りと賛美を通してのみ、神は再び力強くユニークな方法で聖霊を私たちに注いでくださいます。私たちに力とあらゆる敵に対する勝利を与えてくださるのは私たちの内に住まわれる神です。

神がなければ私たちは無力です。

そして、昼は火の柱、夜は雲の柱になりました。

今、聖霊が内住されて、私たちをエジプトから約束の地へ導くために来られました。

今、御言が人間の心と生活の中に宿っています。聖霊の現れによる勝利のキリストの臨在がなければ、人間に勝利はありません。

イエスが戻ってこられる前に、私たちはペンテコステの力が完全に戻ってくるのを見るでしょう。イエスが戻ってこられる前に、教会の罪深さと不従順によって失われたすべての賜物が回復されるのを見るでしょう。

生きた契約の箱

かつて私たちは「契約の箱」と呼ばれる箱を持っていましたが、シェキーナ（神の臨在）の栄光がなければそれは役に立ちませんでした。

今日、私たちは神の生ける「神殿」ですが、受肉した言葉、つまり私たちの内なる神が内在していなければ、単なる空の箱にすぎません。

ペンテコステの日、彼らは強い風が吹き荒れる音を聞きました。

その屋上の間にいた 120 人の弟子たちは、唯一祈りと賛美を聞き、答えることができるお方の臨在に感動し、心を揺さぶられました。ペンテコステと呼ばれるリバイバルは、実際には、内在する存在が、明け渡された心と命の中にリバイバルされたことでした。

シェキーナは血まみれの慈悲の席の上に戻ってきました！ 契約の箱は道を登って近づいてきました！

飢えた人々に対する叫びは、生ける神に向けたものでした。その時、御力が降り、慰め主が来られました。栄光の波が続きました。

彼らは比べものにならないほどの至福を体験しました。

皆さん、今日は契約の箱が再び道を登って来ることをお伝えしたいと思います。御力は戻りつつありますが、私たちの目はまだ神の栄光の完全な現れを見ていません。

ペンテコステ派の力が完全になるのはこれからです。主の注ぎが完全になるのはまだ先です。教会の摂理は屋上の間から始まり、屋上の間の体験で終わります。

その時に起こったことは再び起こりますが、さらに素晴らしいことです！

あなたは、この終末の時に神に選ばれた僕の一人になり、受け入れる準備ができている人々に神が与えられる豊かさを体験したいと思っています。御霊の力が霊に満たされた人々の心に非常に強力に宿り、この人々が視覚障害者の目を開けるように命令し、目が開かれた人々もこの世で即座に従うようになる日が来ています。間もなく、私たちはこれまで知らなかったような力、神の力、聖霊の力を受けるでしょう。

神が都市を揺るがす時が来ると信じるなら、リバイバルの風が再び道を吹き荒れる時、神の完全なシェキーナの栄光が祈りと賛美を通してそれを受け入れる準備ができているすべての人に注がれる時が来ると信じるなら、団結しましょう 私と一緒に、今、御霊の中で、あなたが今日の生活の中でペンテコステの現実を経験することを祈りのうちに受け入れましょう。

「天の御父よ、私たちとともに歩むために御子イエス・キリストを地上に送ってくださったことに感謝します。私たちの内に住まわれる聖霊を送ってくださったことに感謝します。そして今、主よ、私たちが神と一つになることを許してください。主よ、主の御力で歩まれ、主の知恵で行動され、主の奇跡を起こしてください。そうすれば私たちは主の栄光の強力な終わりの証人になることができます！」

「主よ、私たちの賛美を受け入れてください。私たちは、私たちが行うすべてのことにおいて主を讃美します。私たちは今、主が何よりも主あなたを求めたいという願望を私たちに与えてくださるよう、非常に具体的な方法でお願いします。そうすれば、私たちはあなたの栄光のために喜んで犠牲を払い、この終末の世代に仕えることができるのです。」

「主よ、私たちは主あなたを愛し、主あなたを賛美し、主あなたを高め、私たちの人生を通して主あなたが行うすべてのことに栄光を与えます。アーメン。」

著者について

デモス・シャカリアン氏は、世界各国に約 4000 のチャプターを持つ世界的組織「フル・ゴスペル・ビジネス・メンズ・フェローシップ」の創設者兼会長です。

北米刷新奉仕委員会のビンソン・サイナン委員長は、FGBMFI を「世界で最も偉大なキリスト教徒の団体（信徒組織）」と呼んでいます。

各章の目的は、人々が互いに交流できるようにし、各地域社会のビジネスマンに神の救いの御力についての証しをもたらすことです。この活動を通じて、何万人もの失われた魂が救われました。

デモス・シャカリアン氏は、世界中でカリスマ運動の先鋒を支援するために神によって用いられており、ベストセラー本「地球上で最も幸せな人々（邦訳名：**地上最大の成功者**）」や他の多くの強力な奉仕小冊子の著者でもあります。